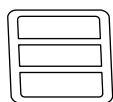


かねざわ 第57号

平成28(2016)年5月

- ・新年度を迎えるにあたって (P-2)
- ・分科会 今年度方針 (P-4~P-8)
- ・第11回 公開歴史講座「元寇と金沢」 (P-16)
- ・「ジョン万次郎 漂流記」 (第1回) (P-35)



“わ”の会 今年度方針

- 2 新年度を迎えるにあたって
“わ”の会 代表 内田 孝知

分科会 今年度方針

- 4 「懐かしの映画を観る会」 佐藤 晃
5 「浮雲俳句会」 北野 清市
6 「ふれあいの道歩こう会」 小俣 悦男
7 「パソコンを使いこなす会」 林 洋
8 「寺社を巡る会」 吉田 寿紀

運営委員会 新任・退任の挨拶

- 8 副代表 就任挨拶 江口 正彦
9 運営委員 新任の挨拶 杉山 茂
9 運営委員 新任の挨拶 鈴木 祥代
9 運営委員 新任の挨拶 深澤 勝美
10 “わ”の会 代表退任の辞 今井 鎮夫
11 “わ”の会 副代表退任の辞 金間 誠一

運営委員会からのお知らせ

- 14 『新版 かねざわの歴史事典』進捗状況
15 継続会員と新規会員募集結果
15 フォーラムKANAZAWA 2016

学習会

- 16 第11回 公開歴史講座 「元寇と金沢」

分科会からの便り

- 19 「寺社を巡る会」活動記録 H27第9~11回
22 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 NO13 小俣 悦男
25 「懐かしの映画を観る会」 NO18
31 「浮雲俳句会」 抄録 NO33 北野 清市
33 「パソコン何でも相談室」【7】 林 洋
35 「ジョン万次郎 漂流記」(第1回) 真田 雅行

行事予定

- 38 6月~8月



金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ:<http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>
メー ル:yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

新年度を迎えるにあたって

“わ”の会 代表 内田 孝知

春よ来いの冬から桜咲く3月、4月、皆様は楽しい花見のひと時を過ごされて、この若々しい青葉繁る5月の心地良い季節を迎えられた事と思います。

新年初めの運営委員会で今年度(平成28年5月～)の代表に選出されました内田です。

代表交代にあたり、ご挨拶と運営方針について会報「かねざわ」の紙面をお借りして、述べさせて頂きます。

私は平成23年(2011)に入会して丸5年、入会早々の9月から運営委員の末席に連なる様になって5年目になります。

その運営委員の仕事も先輩の後をついて、何とかこなして来たのが現状です。

その様な自分が代表に就任するなど、思いも及ばず、次期代表を引き受けてからも、自分で良いのだろうかという戸惑いが常に頭から離れません。

私が代表としては7代目になりますが、今迄の代表の方はいろいろ個性の違いは有るとは思いますが全て素晴らしい方達ばかりです。

私が出来る事は何だろうと自問しつつ、今に至っています。幸い先輩の皆様方が築きあげて来た大きな形・流れが有ります。その事を大事にしつつ、会員皆様にご意見頂きながら何か新機軸が加えられないか模索しつつ、1期2年頑張っていきたいと考えます。

また 金沢区は横浜の中でも特に歴史が有り、今年3月横浜市として3つ目の国宝が指定され、全て金沢文庫、称名寺に縁が有ります。

この事を“わ”の会の活動に生かせないかを会員の皆様とご相談しながら、会のより活性化に向けて取り組んでいきたいと考えています。

“わ”の会の強みと特長は『学習会』と『分科会』が会の両輪として回っている事だと感じています。

【学習会】

学習会の充実が運営委員会の最大の仕事です。5月の総会後の委員会の最初の打合せが次年度の学習会のテーマの選定です。

学習会の基本は金沢の歴史に軸足を置いた内容にする事です。

学習会のテーマも原始から始まり、平成27年度は「中先代の乱と鎌倉・金沢」まで、特に金沢北条氏4代を平成26年、27年度2年4回に亘り学習しました。

平成28年度は「南北朝」周辺を主として学習する事となります。

金沢は鎌倉・北条氏と縁が深く、また興味のある点が多いため、この周辺の学習会がどうしても多くなりがちですし、時間を取っています。学習会の後に書いて頂くアンケートが皆様からのご意見・ご要望に接する唯一のものです。昨年度アンケートを記入して頂くため、学習会の最後に5分と言う短い時間ですが、設定させて頂きましたら、格段にアンケートの提出が増えました。有り難い事です。今後も是非アンケートにご協力頂き、学習会のテーマ選定のみでなく、学習会の運営にも生かさせて頂きたいと考えます。

『探訪』は学習会の中で唯一街歩きが付随する学習会です。

今年度は「杉田界限」と言う事で現在コースその他を検討中です。

未だ若干時間が有りますので、是非皆様のお知恵を拝借したいと考えています。

【運営委員会】

運営委員会は学習会の所でも述べましたが、学習会の運営が全てと言って良い程、学習会中心で回っています。しかしボランティアですので、自分の出来る事を出来る時間で行うのが基本です。私は小俣さんが代表の時に、入会したてで西も東も判らない時、言葉が悪いのですが運営委員会に引っ張り込まれて、当初は参ったなと言う気持ちでしたが、結果引き受けて良かったと言うのが正直な気持ちです。

会員の皆様は色々な理由で入会されて居られると思いますが、私は地元の歴史を知りたい気持ちとそこを通じてコミュニケーションの場を持ちたいと言う気持ちが強かったです。その点では全く望み通りの現在です。

会員皆様、特に新規に入会された会員は是非運営委員会に参加され、色々な方と接点を持たれ、コミュニケーションの輪を広げられる事を私の経験からもお勧めします。

今迄男性ばかりの委員会でしたが、今年度から、深澤さん、鈴田さんのお二人に参加頂ける事になりました。

雰囲気は当然変わるでしょう、運営委員は総会で新任・退任の挨拶をして頂いていますが、年度途中でも一向に構いませんので、是非皆様のご参加をお待ちしています。

【記念事業】

今年度は設立18年目に当たり、平成30年が20周年です。

20周年記念事業の最大のテーマとして「かねざわの歴史事典」3版の編集作業を進めています。この事は平成26年度(2014)の総会で事典編集委員会の常設をご提案、ご了承頂いていますので皆様ご存知の事と思います。この編集委員会も今井委員長、中島副委員長、山田副委員長の下、平成28年3月までで16回を数えるに至っています。

これからが正念場です。委員長以下編集委員の方々は新版(2版)よりも良いものをと気持ちを込めて頑張っています。今後会員の皆様の助力を仰ぐ事が有るかと思えます。

その時は是非ご協力をお願いします。

記念事業としては他に①記念講演会 ②記念祝賀会等を考えています。どういう事をやったら

良いのか、やるべきか、是非皆様のアイデアをお待ちしています。

【分科会】

本稿途中でも述べましたが、“わ”の会の最大の強みが6つの分科会です。

前年度(平成27年)「懐かしの映画を観る会」「浮雲俳句会」が創設10周年となり記念事業として 懐かしの映画を観る会は ①鑑賞映画254本の解説 DVD 発行 ②記念講演 ③記念祝賀会開催、浮雲俳句会は「浮雲俳句会 10年の歩み」を発行しました。

10周年に到達しましたのは夫々、4番目、5番目です。

6番目が「パソコンを使いこなす会」で近々10周年に入ります。

分科会会員の皆様のご努力も素晴らしいのですが、各分科会をリードしています分科会代表のご努力は並大抵では有りません。この姿を拝見するだけでも分科会の価値が有ると言っても過言ではないと思います。入会は自発的で強制するものでは有りませんが、分科会に未だ入っていない方、既に入っているが2つ目、3つ目の分科会を考えて居られる方は新年度を迎えるに当たって、この機会にご検討頂ければ幸いです。

今後 新しい分科会を発足させて行くのも、会のより活性化には良い事ではと考えています。歴史に関するものでなくても構いません。是非アイデアの有る方、ご提案下さい。

運営委員会も全面的にバックアップさせていただきます。

以上 ご挨拶と運営方針などを述べさせていただきました。

私は 楽しく毎日を送る、加えて楽しいコミュニケーションの場を持つ事が最大のアンチエイジングと考えています。同じ様なお考えをお持ちの方は多いのではないのでしょうか。

そのためにも“わ”の会が継続・発展して行く事が大事です。

微力ではありますが頑張ります。皆様のご指導ご鞭撻の程 宜しく申し上げます。

有難う御座いました。

28年度の観賞映画 「懐かしの映画を観る会」

代表 佐藤 晃

平成 16 年 6 月に当会が発足してから、今年の 6 月で 12 周年を迎えます。昨年 6 月には、会員の皆様方のご協力で、盛大に 10 周年の記念行事を開催することができました。今後 3 年続ければ平成 31 年 6 月には 15 周年になります。

当初 17 名の会員でスタートした当会は、今や 80 名の会員が集い、毎月 2 回、映画を楽しんでおります。12 年間で 300 本近い映画を観賞しましたが、100 年を超す映画の歴史には、まだまだ多くの名画が残されております。名画の宝箱を開けて、これからも名作、名画を楽しんでゆきたいと思えます。

28 年度の観賞映画は例年通り外国映画 16 本、日本映画 8 本の映画を観ますが、この他、再観賞映画として『舞踏会の手帖』他 3 本を加え、合計 28 本の映画を観賞いたします。例年同様、観賞映画の約半数は会員、皆様の投票で決め、残りは代表の佐藤が選んでおります。28 年度の会員投票の第 1 位は外国映画では 5 票で『マディソン郡の橋』、『キー・ラーゴ』、『ディア・ハンター』、『恋の手ほどき』の 4 本が同票でした。また、日本映画では『米』、『真空地帯』、『博士の愛した数式』、『柘榴坂の決闘』、『蝸の記』、『娘・妻・母』の 6 本が 6 票で同票第 1 位でした。これらの作品は総て観賞映画になっております。さらに、外国映画では 5 本が加わり、外国映画 9 本、日本映画 6 本、合計 15 本が会員選定の映画となりました。

本年度観賞映画の主な作品を紹介いたします。『マディソン郡の橋』(1995 年)は 1992 年に発売され世界的ベストセラーになった同名の小説の映画化で、クリント・イーストウッドが監督、主演を務め、メリル・ストリープを相手にした大人のラブストーリーで、公開当時

大いに話題を呼んだ作品です。『キー・ラーゴ』(1948 年)はハンフリー・ボガードとローレン・バコールの夫婦が共演するハード・ボイルドの傑作です。『ディア・ハンター』(1978)は、ベトナム戦争に徴兵された若者がベトナム軍の捕虜となる。捕虜に強制される「ロシアン・ルーレット」にベトナム兵が熱中している際に捕虜は脱走するというベトナム戦争がもたらした狂気をリアルに描いた力作で、アカデミー作品、監督賞など、5 部門受賞作です。『恋の手ほどき』(1958 年)はアカデミー作品、監督賞など、10 部門の受賞を果たしたミュージカル映画の傑作です。この他、代表推薦の『恋におちたシェイクスピア』(1998 年)は、その年のアカデミー賞 13 部門にノミネートされ、作品賞はじめ 7 部門を制したラブロマンスの秀作です。また、『それでも夜は明ける』(2013 年)はアカデミー作品賞を得た黒人問題をえぐった力作です。

日本映画の『米』、『真空地帯』は、共に、50 年代の映画で、『米』(1957 年)は霞ヶ浦近辺の貧しい農民を名匠今井正が描いた日本リアリズムの傑作です。『真空地帯』(1952 年)は野間宏の原作を得て、山本薩夫監督が日本陸軍の内務班の実態を容赦なく暴いた映画で、60 年ほど前、真剣な眼差しでスクリーンを見つめていた頃を思い出します。『博士の愛した数式』(2005 年)は芥川賞作家小川洋子の原作を小泉堯史が監督したヒューマンドラマです。交通事故の後遺症で僅か 80 分しか記憶することができない数学博士と若い家政婦とその息子との交流を描いています。2014 年公開の比較的新しい映画から『柘榴坂の仇討』、『蝸の記』の 2 本を観賞します。共に時代劇ですが、若松節朗、小泉堯史監督が役所広司、岡田

准一、阿部寛、中井貴一等の現在の日本映画を支えている人気俳優と共に時代劇に新風を送りました。昨年9月に95歳で亡くなった原節子さんをしのんで、今年度は『娘・妻・母』、『お嬢さん乾杯の』の2本を観賞します。戦後日本映画復興の際には、かけがえのない女優として活躍し、上品なしぐさ、笑顔は日本人の心を捉え、癒してくれました。当会でもまだ観賞していない原節子主演の映画がありますので、これからも観賞を続けていきたいと思っております。また、会員から再観賞の要望が多くありながら、3時間に近い大作のため、見送っていた『ゴッド・ファーザー』と『ドクトル・ジ

バゴ』を観賞します。暑い8月には代表の独断と偏見で納涼を兼ねて“怖い映画”を2本用意しました。日本映画の『怪談』（1964年）とフランス映画の『悪魔のような女』（1955年）です。ひと昔前の“お盆映画”としてご覧ください。ちまたでは、「午前10時の映画祭」として、当会とほぼ同じコンセプトで往年の名画が公開され、多くの映画ファンに支持されております。若かりし頃、感動した映画に再びめぐりあうことで、私たちの心もリフレッシュされ、残された人生をより豊かに過ごすことができると思います。今年も会員の皆様と一堂に会して映画を楽しみましょう。

今年度方針

「浮雲俳句会」

代表 北野 清市

「浮雲俳句会」の本年度活動方針は、“湖沼俳句”へのトライとした。

1 わが国の湖沼

湖沼は、周囲を陸地に囲まれたくぼ地の中にあって、直接海とつながらない水塊。湖は沼より深く比較的面積の広いものをいい、一般に湖は水深5mより深く、沼は5mより浅いものを指す。湖沼の成因はいろいろあって主要な成因を大別すると、

(1) 構造湖

この中断層湖は断層などによる地溝に灌水したもので大規模なものは琵琶湖がある。火山地域の地盤が陥没したカルデラ湖は主要な湖沼の大部分がこれに属する（摩周湖・十和田湖）。火口湖は噴火口に水がたまったもので蔵王御釜などがあげられる。

2) 堰止湖

火山の噴火で流出した溶岩が谷川を堰き止め、できた中禅寺湖・山くずれで生じた震生湖、河川が土砂を運び支流の入り口を堰き止めて生じた手賀沼・印旛沼。

(3) 浸食湖

河川の旧河床がそのまま湖となった利根川流域の湖沼もある。

2 湖沼への取組具体的には、ご当地神奈川や関東方面を中心に、10の湖沼をピックアップした。因みに、芦ノ湖（7月）・浜名湖（8月）・五色沼（9月）・阿寒湖（11月）・十和田湖（12月）・富士五湖（新しい年の1月）・伊豆沼（2月）・霞ヶ浦（3月）・宮が瀬湖（4月）・尾瀬沼（5月）を毎月の句会の兼題として挑戦してゆく方針だ。

侍従川河口に群れる上り鮎 一清

今年度の方針

「ふれあいの道歩こう会」

代表 小俣 悦男

お陰様で「ふれあいの道歩こう会」は創設13年度目(当会は年度の仕切りを1~12月としている)に入っております。今年度も創設時から標榜してきた安全・安心な山歩きを第一に、かつ、チームワークを大切にしながら分科会活動を継続して参ります。「関東ふれあいの道」144コース終了後は会員からのアンケートでコース案を募り関東周辺のハイキングコースや軽登山コースと「関東ふれあいの道」のアンコールコースを、花や紅葉などコースごとのベストシーズンを考慮したうえで立案、月例会を実施している。4年度目に入り36番コースまで進んでいる。

【今年度の月例会について】

今年度も8月の夏休みを除く11回の月例会が生まれ既に4回が実施された。標高差や歩行距離、時間さらに登山道の状況などから、「1. やさしい」、「2. ふつう」「3. きつい」の3段階に分類、11コースのうち、「1. やさしい」が4回「2. ふつう」が5回「3. きつい」が2回となっている。例年1泊例会を1回入れているが、今年は7月に昨年雨で中止となった尾瀬を入れ、10月の草津・志賀高原への1泊山行と2回予定している。両コースとも天候に恵まれ実施できることを期待している。会員数は22名(男性16名、女性6名)、出席率は目安としている80%を超えている。

【2017年度、2018年度のコース選定】

「独自コース」の選定にあたっては、コース選定委員会を設けており、この委員会が会員の「行きたい」、「素晴らしいので仲間を案内したい」などの観点でアンケートへ応えた中からコ

ース選定を行っております。第3回目(2017年度、2018年度)の「独自コース」アンケートは3月末に締め切り、7月末を目途に計画案を策定中です。

【安全・安心への対応】

一昨年、日赤から派遣頂いた指導員のもと事故や怪我をした時の緊急手当てや対応について講習会を開いた。第2回目として5月2日に『すぐそこにある遭難事故』の著者金(こん)邦夫氏(元警視庁山岳救助隊副隊長)にお願いし、「中高年登山の落とし穴」と題して講演会を実施した。今後も安全な山歩きを第一として、会の運営を行っていく。

【役員世代交代】

少人数とはいえ、新会員の加入は継続しておりその結果、62歳から82歳と年齢層は幅広い(平均年齢は凡そ73歳)。月例会は二人1組で順番に当番を決め、当番はコースの事前下見と計画書並びにマップ作成さらに、実施日は責任者としてリーダーを務める。創設当初から、計画書とアルバムは、“わ”の会のホームページに掲載され、3年前からは会報へも毎会、月例会実施概要を掲載している。また、今年度に入り「ふれあい記録(実施記録)」も書き溜めてきた創設当時からのものを含めホームページに掲載していただいている。標榜してきた安全・安心第一の山歩きも無事故で13年度目に入り、一歩ずつ積み重ねてきた学習会を母体とする分科会活動体制に一つの目途をつけたこの機会を捉え、今年度と来年度の2年間で代表をはじめとする役員世代交代を進めている。今後もよどみなく分科会活動が継続されて行くことを願っている。

今年度の方針 「パソコンを使いこなす会」

代表 林 洋

「パソコンを使いこなす会」では、パソコン操作でお困りの会員、パソコンをもっと上手に使用したい会員のためにノートパソコンを持ち寄って、みんなで問題点を解決することを目的として活動を進めています。毎月第2、第3火曜日に、主に金沢地区センターに集まって次のようなことを勉強しています。

- 1) 基礎講座：自作テキストを使用した年賀状・地図・ピラ等の作成
- 2) 実用講座：インターネット情報や雑誌記事を参考にしたパソコン操作・検索技術の習得
- 3) 復習講座：市販の教材を使用した WORD・EXCEL 操作の復習

平成 27 年度は、WORD の書式設定、卓上カレンダー作成、EXCEL のグラフ作成・編集・書式設定等、デジカメ写真加工、Windows の使いこなし・便利な小道具、Google Drive 等について勉強しました。

今年度は、分科会設立から 9 年目に入ります。現在、26 名の会員登録があり、今まで累計 42 名の方が在籍し、その内、10 名の方が当初から参加しています。

パソコンやインターネットは、現代生活の必須インフラです。私は、金沢区内のコミュニティハウス、地区センターでの「パソコン相談室」や「街の先生」の活動で、パソコンに関するさまざまなトラブルの解決に協力してきました。これらの相談内容を参考にして、学習テーマを選定しました。

平成 28 年度は、動作の重くなったパソコンを軽くする方法、ファイル・フォルダーの整理、Drop Box 等の使い方、インターネットでの申し込み、音楽 CD の作成、古いパソコンから新しいパソコンへのデータの移行、Skype の使い方、PICASA の使い方、印刷設定等を勉強します。今年度からの新入会員大歓迎です。

また、“わ”の会の学習会、寺社を巡る会、懐かしの映画を見る会の場で会員の方々から具体的な質問があり、お答えすることも何度かありました。今年度も、このような個別相談に分科会として取り組んで問題を解決する能力を高め、会員間でも情報共有して活動範囲を広げたいと思います。

今年度の方針 「寺社を巡る会」

代表 吉田 寿紀

「寺社を巡る会」は平成 14 年に地域の史跡・寺社を訪れ、その勉強をするため“わ”の会の会の最初の分科会として発足しました。スタートは金沢区を中心に金沢礼所三十三か所巡りに始まり鎌倉及びその周辺、三浦半島などの他東海道宿場巡り、東京の寺社や博物館巡りあるいは大山詣でなどにも行っています。

昨年度は平成 26 年度からスタートした「三浦三十三観音霊場めぐり」の残り 2 地区を「よこすかシティガイド協会」の案内で巡り、9 月からは「神奈川区いまむかしガイドの会」の案内で横浜市北部の都筑区、港北区の新しく都市開発された中にも田畑・緑地の残るのどかな土地のお寺、神社、史跡を巡っています。

今年度は昨年度からの続きを5月で終了したのち、6月からは希望の多い鎌倉地区の寺社巡りが新たにスタートします。有名な寺社も

もちろん普段中々気づかないような史跡も含め3年をかけて巡る予定です。

真夏の8月と真冬の2月は座学として五木寛之の「百寺巡礼」のDVD鑑賞を行う予定です。さらに11月には皆の楽しみにしている日帰りバス探訪で「富士山一周 浅間神社巡り」に行く予定にしています。

当会は“わ”をモットーに楽しみながら勉強する会です。歩くことにより体力の維持・向上を図るとともに、いつまでも若々しい頭脳を保つことを目標に活動をしています。月一回の定例会の後は、希望者による「反省会」という名の懇親会を開催し、さらに絆を深めています。

現在会員は42名ですが、さらに多くの仲間と一緒に活動してゆきたいと思い新入会員を募集しています。この季節替わりを機にどうぞ当会に入り皆と活動してみませんか

“わ”の会 副代表 就任の挨拶

江口 正彦

この度、副代表をと云うお話しに、“わ”の会のことも考えお受けすることとしました。

金間前副代表が12年以上にわたり積み重ねられたものを遂行するのは大変なことなのでどこまで皆様に納得していただけるかわかりませんが、生涯学習の一環として務めさせていただきます。私は、“わ”の会に2014年に入会させていただき、同時に運営委員を引き受けて2年たちます。おかげで、“わ”の会がどのように運営され、どのように活発に皆様が活躍されているのかを感じさせていただいておることに感謝します。副代表の役目は、代

表の補佐というだけでなく雑用係的なことから、会報、ホームページ、事典等々多岐にわたっております。金間さんが12年間培われたものを簡単には出来るとは思っておりませんが、幸い金間さんも顧問として最低1年はやっていただけるので1年をかけて引き継いでいきます。また、今後の“わ”の会の運営委員などの役員を皆様に参加していただきやすいようにしていくよう努力していきたいと思っています。

不手際も多々あると思いますが、ご協力とご指導を宜しく願います。

運営委員 新任の挨拶 杉山 茂

今回、“わ”の会の運営に携わらせていただくことになりました。金沢区に移り住んで30年以上経つのに、自分の住んでいるところについて、何も知らないことに気づき、街歩き、各種講座などに出るようになった矢先、書店で「金沢の歴史辞典」を見つけたのが、“わ”の会を知るきっかけでした。本は大変重宝しましたが、生涯学習“わ”の会は難しそうな会ではないのかと思いました。以後、公開講座に参加したり、活動の様子を聞いたりして、会の魅力

がわかってきましたが、入会適齢期が過ぎたと思っていました。昨年入会のお誘いがあり、躊躇しましたが入会させていただきました。講座、分科会などを通して会の素晴らしさを満喫しているところであります。運営委員とのお言葉をいただきお受けしたのは軽率であったかと反省をしているところでありますが、少しでもお役にたてばと務めさせていただきます。至らぬ点をご容赦をいただき、よろしくお願いいたします。

運営委員 新任の挨拶 鈴田 祥代

平成15年に先輩より「とっても良い会があるよ」と紹介され“わ”の会に入会をさせていただきました。と同時に「寺社をめぐる会」「古文書を読む会」その後「懐かしの映画を観る会」そして「浮雲俳句会」に入れていただきました。素敵なお仲間と共に楽しく、楽しく活動をさせていただいていたところ、古文書の真田先生よ

り「分科会から運営委員を出さなくてはいけない」とのお話があり、この度深澤さんと共に運営委員をお引き受けすることになりました。お役に立てるかどうかは分かりませんが、運営委員も楽しく活動させていただきたいと思っております。

運営委員 新任の挨拶 深澤 勝美

2月、3月はなんの会でも次期委員を決める時です。のほほんとしている私のところに、よもや運営委員の話がくるとは思いもしませんでした。入会して15年余り、月日のたつのは早いもので、それなりに私も歳を重ねました。私は、海あり山あり、そして鎌倉にも近いこの金沢の町が大好きです。また、金沢を中心とし

た“わ”の会も楽しみにしています。分科会もいくつか参加しています。運営委員が私に勤まるかなと思い、考えに考えた末、引き受けることにしました。皆さんの足手まといにならないように心がけます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。“わ”の会のますますの発展を心よりお祈りしつつ、ご挨拶といたします。

“わ”の会 代表退任の辞

今井 鎮夫

3年間、代表の役を務めさせていただき、このたび退任する運びになりました。この間、会員皆さまには充分なるご協力をいただき、大過なく運営できたことを、まず感謝申し上げます。とりわけ、分科会役員の方々そして常設委員会・運営委員会の方々のあたたかいご支援は何にもまして心強いものでした、誠にありがとうございました。

会員数が120余名をキープし、学習会出席数も90名前後でありましたことは、「生涯学習」の会としては、誇れる数字だと思っております。特に、会員継続率が90%以上という結果は、講座を設定・運営する側としては安堵するものでした。学習会の講座の設定は、易しいようで結構大変です。講師料のこともあります。相手が「先生」なので対応に苦慮することもありますし、連絡方法でもかなり面倒が発生します。これぞというテーマと講師がおられれば、積極的にご提案していただきたく存じます。“わ”の会は会員制なので、皆さまイーブンです。どなたも同じように発言権をお持ちなのですから、どんどん意見を述べ、運営にも携わってほしいと切に願っております。

この3年間で良かったなと思うものは、大橋新太郎生誕150年記念講座で区役所と

コラボできたことと事典編集委員会を常設化したことです。

残念だと思ふことは、ビジター会員を取り込めなかったこと、PR不足だったと思います。そしてもう一つは新分科会を創設できなかったことです。当会の特色は、分科会活動が活発なことです。会員の定着、学習会の出席率は分科会の存在抜きには考えられません。新分科会、新分科会、新分科会と呪文のように唱えています。

一期2年という約束で代表の任を引受けましたが、バトンタッチがうまくいかずに1年延長せざるを得ませんでしたこと、約束を違えて本当に申し訳ありませんでした。

今回、やっと口説き落とせて、新代表には内田孝知氏、新副代表に江口正彦氏を迎えることができましたのは、ことのほか嬉しい限りです。ご両人とも“わ”の会にとっては、なくてはならない方であり、これからの“わ”の会、発展のために大きな推進力となられることでしょう。

何はともあれ、役がおわりホッとしたというのが、偽りのない心境です。いままでのご厚誼に、重ねて会員皆さまに御礼申し上げます。ありがとうございました。



副代表・運営委員退任のご挨拶

金間 誠一

“わ”の会会員13年、運営委員12年、副代表11年の永きになりました。この間における諸先輩をはじめ会員各位からのご指導、ご支援に感謝し、お礼を申し上げます。

“わ”の会入会は創設5周年の平成15(2003)年。その年の10月からオブザーバー(見習い)として運営委員会に。翌年の平成16(2004)年5月に運営委員に。当時の代表は第3代の高橋好一さん。平成17(2005)年に岡本茂男さんが第4代の代表に就任。その時に副代表にして頂きました。その後、平成21(2009)年に小俣悦男さん、平成25(2013)年に今井鎮夫さんと代表のバトンタッチがありましたが、ご両人の下で引続き副代表を務めさせて頂き、今日に至りました。

運営委員にして頂いた12年前は60歳でした。着任して運営委員(男7、女2)の名簿を拝見して、びっくりと少々の不安と安心感を持ちました。跳びぬけて若い女性1人を除いて、5才以上の年長の先輩ばかり。「パソコンを使う仕事なら役割を果たせるな。しかし、そんな場面はこの会にあるのかな」の思いでした。蓋を開けてみると心配ご無用。特命的にパソコンにかかわる仕事をいろいろと担当させて頂きました。会報編集、ホームページの立上げと運営、初版『かねざわの歴史事典』の説明文がフィックスした後の事典形態への仕上げ、分科会「パソコンを使いこなす会」の立上げ、創立5周年記念誌『“わ”の会5年の歩み』・創立10周年記念年誌『“わ”の会10年の歩み』の原稿作成・編集、会員募集などの各種チラシの作

成、探訪資料・総会資料の編集、パソコンのスライド機能を使った講座資料の作成代行や当日のパソコン操作などです。そのお陰で、“わ”の会創設の理念・運営の仕組み・実務の進め方、地元金沢の歴史、パソコンの使いこなしの勉強が出来ました。

運営委員になって1年が経過したところで、多少パソコンが使えて便利だからということで、副代表にして頂きました。副代表を拝命して「副と言えども代表と呼ばれるからには学習会のみならず“わ”の会のもう一本の柱である各分科会の活動を具体的に知っておくことが必要。少なくとも1度は各分科会の活動の場に参加させて頂こう」と思いました。「寺社を巡る会」、「古文書を読む会」、「ふれあいの道歩こう会」、「懐かしの映画を観る会」、「パソコンを使いこなす会」については定例会の場に少なくとも1度は参加させて頂きました。ところが、「浮雲俳句会」だけは別世界。定例会に顔を出させて頂く勇気はついに持てませんでした。平成27(2015)年7月に「浮雲俳句会十周年記念誌」の編集でお手伝いのチャンスを与えられ、お手伝いの過程で10年の歴史をつぶさに聞かせて頂き、運営委員12年の最終コーナーになってやっと全分科会の活動状況を知ることができました。

運営委員会の最も重要な仕事はパソコン業務でもなく、分科会でもありません。「我が街かねざわの歴史を学ぶ」学習会の企画・運営が第1です。なかでもどのような学習会テーマとするか、講師は誰にするかが最重要です。こ

れについては、力不足で歴代の代表にお任せ状態でした。副代表として出来たのはテーマが「我が街かなざわの歴史」から逸脱しないようにとはらはらとしながら心配することくらいでした。テーマと講師が決まると、各学習会を担当する運営委員を決めますが、経験の度合いが異なっても各学習会をスムーズに準備し実行できるように、準備と当日のプロセスを細かく紙面に書き出(見える化)し、確認を確実にとりながら進める方式の定着に注力してきました。その次に重要な運営委員会の仕事が広報業務です。パソコンで会員募集や行事案内のチラシを分かりやすくかつ見映え良く作る、会全体の透明性を高めるために運営委員会をはじめ各分科会の活動状況を出来るだけ会報やホームページを通じて会員の皆様にタイムリーにかつ分かりやすくお知らせすることに努力してきました。掲載情報や原稿の提供、編集、校正、印刷、配布などで、関係の会員や委員会メンバーに大変お世話になりました。

運営委員・副代表を努めさせて頂いたことで役割が廻ってきたもうひとつの仕事がありました。金沢区役所が力を入れて毎年開催している「フォーラム KANAZAWA」の実行委員会に一時期参加させて頂いたことです。“わ”の会創設は金沢区役所の支援の下で行われ、最初の3年間は運営費の補助を受けました。4年目からは金銭的な支援はなくなりましたが、現在でも毎年の学習会会場の確保で区役所から地区センターの優先利用の認証を頂戴しております。また、運営委員会や分科会の会場あるいは資料印刷などで区の施設や機器を利用して頂いております。よって、区役所とは良い関係を維持していかなばなりませんし、区民の皆様にも何らかの形でお返しをしてゆかなばなりません。平成15(2003)年に区役所から“わ”の会に対して「フォーラム

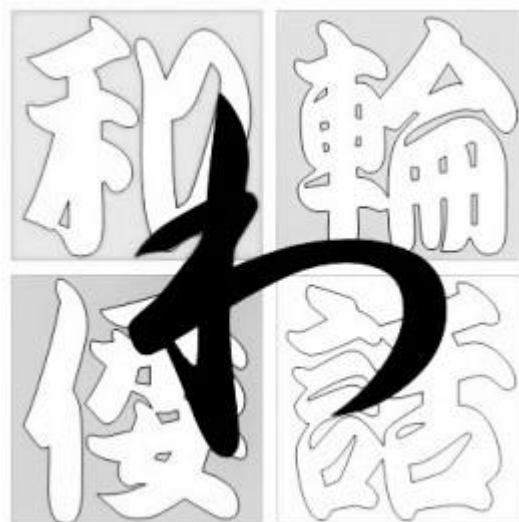
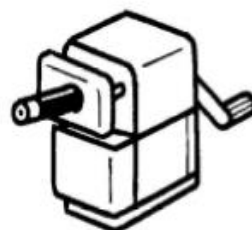
KANAZAWA」への協力依頼があり、当時の代表であった高橋さんが初代の実行委員会委員長に就任。2年目の平成16(2004)年に、実行委員に退かれた高橋さんと共に委員会に出席。平成17(2005)年からは高橋さんが代表から降板されたので、他の運営委員と共に実行委員として平成20(2008)年まで通算5年間参加。その間、区役所と地区センターの担当職員、他の生涯学習団体の運営委員、街の先生方と協力して企画・準備・実行を進める仕組み作りとその実施に協力させて頂きました。その時に作った仕組みや資料が現在も生かされています。

この12年間で各分科会とはいろいろな面でお付き合いをさせて頂きましたが、残念ながら分科会に所属したのは「パソコンを使いこなす会」のみで、しかも立上げ期のほんのわずかな間でした。しかし、「ボランティアで、共通の目的を持って集まり、何事かをなすことを通じて、相互の交流を図る」ということが分科会の精神とすれば、運営委員会もボランティアの集まりであり、分科会であります。その意味で「12年間ずっと運営委員会という分科会に所属してきた」と実際に感じています。運営委員会は、10人程度の委員が一緒に考え、一緒に作業をする場です。運営委員会では時には濃密な課題も出てきますので、それだけに交流も密になります。また委員会メンバーの枠を超えて関係する人の範囲が大きく広がっていますので交流の範囲も広がります。特定の趣味がなく、何かやりたい会員様には運営委員会という分科会入りをお薦めします。

“わ”の会創設メンバーが代表を務めたのは第3代の高橋さんまでの6年間で、平成16(2004)年末で終了。この間に高橋さんは強いリーダーシップを持って、当会の今日の仕組みを完成されました。運営委員会から“わ”

の会創設メンバーが 1 人もいなくなったのは 11 年目に入った平成 21(2009)年。小俣さんが代表に就任した年です。小俣さんは平成 14(2002)年から運営委員会に参加し、創設メンバーの薫陶を受けてきた人ですから運営の基調は継続されました。一方、運営委員会の高齢化に危機意識を持たれ、強力にリクルートを展開され、運営委員の新旧交替が進みました。そして、平成 25(2013)年に小俣さんが退任され、創設メンバーとは接点を持たない今井さんが代表を引き継がれました。これらで、創設メンバーからの影響の度合いが薄まり、しばらくすると運営に新風が吹きました。最近になってパソコンにも明るくて優秀な運営委員のリクルートも叶いましたので、創設メンバーの薫陶を強く受けたもう 1 人もそろそろ退任と思っておりました。今回、今井さんが代表・運営委員を辞されると聞き、「さらなる新風を吹かせるにはこれが潮時。副代表・運営委員を卒業させて頂く」と即断いたしました。これで創設時のしがらみを強く引きずった者が全て去り、しがらみを持たない強力な委員で構成された運営委員会となります。新体制の下でのびのびと新しい風を吹かせて、“わ”の会が益々発展すると信じます。

この 13 年間で元気で過ごせたのは、“わ”の会に入れて頂いたこと、運営委員にして頂いたこと、副代表にして頂いたこと、皆様から多大なご厚誼を頂いたことのお陰と感謝しております。ありがとうございました。



『事典』（第3版）の進捗状況と

『新版 かねざわの歴史事典』（第3刷）の販売実績

（進捗状況）

平成26年5月の総会で、「事典編集委員会」が常設委員会として認定されてから、2年になります。

これまで16回の編集委員会を開催しました。そこで決まったことは、

- ① 平成30年（2018）の20周年に向けて編集・発行する。
- ② 『第3版 かねざわの歴史事典』とする。
- ③ 追加項目の選定範囲は、平成12年（2

（例）

p26【金沢産業団地】かねざわさんぎょうだんち
金沢の地先埋立事業により昭和49～55年（1974～1980）に造成された幸浦一、二丁目、福浦一～三丁目の約400haの地域に建設された産業団地。幸浦地区と福浦地区からなる。横浜市内にあったの企業の工場約750社が工場を市街地から移設し進出した。排水処理施設、ごみ焼却施設、金沢シーサイドラインの車両基地、横浜ヘリポートや横浜市大医学部と附属病院などがある。隣接する住宅地域との間には長さ約4kmの金沢緑地がある。p-26【金沢産業団地幸浦地区】かねざわさんぎょうだんちさちうらちく金沢産業団地のうち①幸浦地区（幸浦一、二丁目）は、昭和50年（1975）までに造成された幸浦一、二丁目の約200haの地域。進出企業は三菱重工業のほか木材関連企業、流通運輸関連企業など。公共施設としては排水処理施設（金沢水再生センター）、ごみ焼却施設などがある。[-三菱重工業金沢工場]p-26【金沢産業団地福浦地区】かねざわさんぎょうだんちさちうらちく金沢産業団地のうち②福浦地区（福浦一～三丁目）は、昭和55年（1980）までに造

成された福浦一～三丁目の約200haの地域。

④ 判型をB5判（従来のものより一回り小さい）とするというものです。

そして、現在（第16回）時点では、改訂すべき項目の洗い直しとその改訂文がほぼ終了というところまでできました。改訂項目は270項目を超えています。下はその一例で、3項目を一つにしたため、訂正箇所が目立ちます。

成された福浦一～三丁目の約200haの地域。進出企業は製造業を中心とした機械金属、メッキ、電機精密工業など、製造業を中心とした企業。公共施設としては金沢産業振興センター、海外技術者研修センター、横浜金沢ハイテクセンター、工場排水処理場、横浜ヘリポート、横浜市立大学医学部及び附属病院などがある。[-金沢地先埋立事業] [-金沢緑地] [-三菱重工金沢工場]今年度は主に、追加項目の選定と記述に入ります。事典編集委員にはどなたでもなれます。常時、門戸を開けておりますので、お申し出は大歓迎です。こんな項目を追加項目として採用してくれ、というのも大歓迎です。

（販売実績）

『新版 かねざわの歴史事典』を平成25年（2013）に300部重版（第3刷）しました。平成25年度119部、平成26年度57部、平成27年度40部の計216部を売上げました。売上額は、21万円を超えました。製作費が20万余でしたので赤字にはなりません。無代が81冊ありますので、総計297部となり販売する在庫はなくなりました。ご協力ありがとうございました。

継続会員と新規会員について

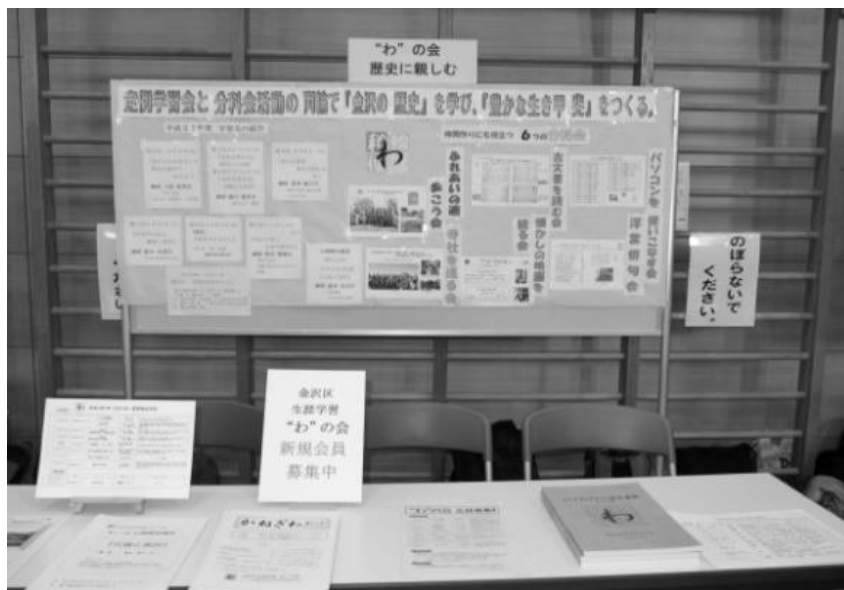
平成28年度の継続会員は115名です。10名の方が退会なさいました。毎年、10前後の退会者数です。理由はそれぞれでしょうが、「自治会の役員になり、第2土曜は出席できない」「妻（あるいは自分）の具合が悪いので」などの理由をおっしゃっていました。7回の学習会の内、0回～1回出席の方がほとんどです。しかし、継続率は92%です。すばらしい定着率だと思います。

新規会員を2カ月かけて募集しました。8名の応募がありました。毎年、10名以上の応募者があるのに今年度は少なかったのはなぜでしょうか。講師名かテーマか、募集人数かといういろいろ分析しましたが、これという理由が見つかりませんでした。とまれ、全員に入会OKの返事を出しております。応募者の平均年齢は75歳です。まだまだ元気な方がたくさんいらっしゃいます。

フォーラムKANAZAWA 2016

去る2016年3月5日（土）金沢区生涯学習交流会実行委員会主催、金沢区役所共催、による「フォーラムKANAZAWA 2016」が能見台地区センターで開催されました。「街の先生」「登録団体」合計42団体が参加され私達金沢区生涯学習“わ”の会も2年ぶりに参加いたしました。

会員、運営委員、の皆様の御力、御支援によりまして無事終了することが出来ました、事務局の報告では450人の来場があり、“わ”の会も新しく2名の会員が入会されました。反省点といたしまして関係者の方々多く一般の参加の告知をもっと呼びかけることが大切と、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。



展示ブース

第11回 公開歴史講座

「元寇と金沢」

開催日：平成28年2月13日（土）

9：30～12：00

会場：能見台地区センター多目的室

講師：歴史研究家 盛本 昌広 氏



【概要】

モンゴル帝国の動き

チンギス・ハンが広大なモンゴル帝国をつくりましたが、その孫に当たるフビライ・ハーンは、朝鮮の高麗を制圧し都を大都（北京）へ移して国号を元とし日本に対してたびたび朝貢を要求してくるようになった。

文永5年（1268）正月に高麗潘卑が太宰府に到着した。閏1月18日に少弐資能がモンゴル・高麗の国書を幕府に送る。2月7日に幕府は国書を朝廷に奏上した。同月10日に後嵯峨上皇が国書への返答を審議させ、返牒を不可とし、社寺における異国降伏の祈禱、二二社への奉幣、伊勢神宮への勅使の発遣、山稜使の派遣などを決める。同月19日に幕府は使者潘卑（ハンブ）を帰国させる。同月27日に蒙古人が本朝を窺い、近日牒使を送ってきたので、用心するように讃岐の御家人に命じモンゴル軍の襲来に備えるため、1271年9月に九州に所領を持つ御家人に対し、下向して警護に就くように命じ、翌1272年2月には「異国警固番役」を発足させ3月5日に北条時宗（1251～84）を執権・政村を連署に据えて、徹底抗戦の決意を示した。

文永11年（1274）（文永の役）

10月5日フビライは約3万の元・高麗の連合軍が対馬島にくる。代官の宋氏らは討死。島民も殺されたり、捕虜になった。10月14日

に吉岐を襲い守護代平景隆は自害した。日蓮の書状によれば平戸・能古・鷹島を襲撃し、松浦党の武士数百人を殺したとあり、日蓮は相当の情報を持っていた。20日に筑前国に上陸し、対する日本軍は、少弐景資（1246～85）を中心に九州各地の御家人約5000騎が防戦したが、元軍の集団戦法や火薬兵器などに非常に苦戦した。運良く大風が吹いて元軍は撤退していった。21日朝には蒙古の船は見えなかった。『八幡愚童訓』には「去程二夜明しバサリテ、逃ヤラデ在リシモ」とあり大風は吹いたが、神風とは記録されていない。

フビライは幕府に再び使者を送って服従を求めて来たが、時宗は使者を切り捨てた。同時に元軍の再来にそなえて「異国警固番役」を強化し、博多湾に20キロにわたる石塁を築いた。建治2年（1276）執権北条氏の一族宗頼を長門、周防両国守護として派遣し、敵襲の防衛にあたらせた。以後北条一族がその地位を相伝し、諸国の守護以上の強力な権限を与えられた。

弘安4年（1281）（弘安の役）

南宋を滅ぼした元は約14万の大軍で再び日本に来襲してきた。7月30日夜・閏7月1日に「大風、賊船悉標倒、死者不知幾千万、但將軍范文虎歸国云々、大元船二千五百余艘、兵士十五万人、除水手、高麗船千艘云々」鎌倉年

代記によればこの時は大風が吹いて船が沈没した事実はあり後に、これを神風と呼んだ。北条時宗は3年後の弘安7年に34歳で死去した。元寇の心労といわれるが、そんなことはなく得宗家の人はだいたいが短命であった。

蒙古来襲の影響をうけ、引き続き九州の御家人を異国警護番役に動員していった。さらに御家人以外の武士を動員する権限を朝廷から認められ、西国一帯に対する幕府の支配力が強化された。従来の鎮西奉行に変わる鎮西探題に北条一門を送り幕府が政務や裁判、御家人を指揮する体制を強化していった。金沢北条氏の実時、顕時も引付頭人として元寇に対し、重要な地位にいた。顕時は伊勢守護にもなり、貞顕、貞冬と継いで、六浦からの海路を確保していた。顕時の弟、実政は、周防・長門守護に任じられ、六波羅探題の管轄から逸脱し、長門探題と称されて、のち鎮西探題となった。守護には裁判権はなかったが、探題にはあった。とくに家督を継ぐ得宗の勢力が圧倒的になっていった。北条貞時の権力は絶対的になり、得宗専制政治が確立した。

称名寺の創立

文應元年(1260)に実時が建立したと推定されている。はじめは「ナミアミダブツ」を唱える浄土系の不断念仏衆だったが真言律宗

に改宗したのは高麗の使者が来る1年前、文永の役の7年前だが叡尊(えいそん)の「関東往還記」によれば「称名寺別当越州外舅云々」とあるので、これより前に称名寺はできていた。実時は妻の父を称名寺の別当にしていた。叡尊は実時の招きで鎌倉に下向した。実時は念仏を定位して称名寺に住んでほしいと叡尊に願ったが、叡尊は拒否。北条一族は叡尊に帰依して、律宗を受容した。称名寺一世・審海と忍性とは密接な関係があった。以後、金沢顕時・貞顕の保護により発展した。

鎌倉時代に始まった新仏教、念仏や禅を重視したこれらの仏教は、武士や庶民にまたたくまに広まった。この時代は変地異・飢饉に悩まされた民衆の心をつかみ1つの行いをすれば誰でもが救われると説き絶対的支持を得た。一遍は元寇の最中に盛んに活動して各地を廻り善光寺や小田切の里(佐久市)で踊り念仏を始めた。これは元寇などでの社会不安から民衆を救済する意図があった。最後に「一遍聖絵」を説明し鎌倉に入ろうとする一遍と馬に乗った北条時宗が会う有名な場所は、小袋坂や建長寺前でなく、もっと大船寄りの台の分岐点鎌倉道(弘明寺に向かう)藤沢方面へ向かう道の「分岐」ではないかと自説した。

(鈴木秀幸 記)

1. アンケート結果 (※印はビジターの人)

出席者		一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	計	アンケート (提出率%)
	男	58	8	66(62.2)	8	74	
女	12	0	12(63.1)	2	14		
計	70	8	78(62.4)	10	88		

2. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった
33名(※5名)	19名(※2名)	2名(※1名)	0名

- ・熱気が伝わり、通る声で歯切れがよく、ていねいな説明でわかりやすかった(20※4)
- ・聞きたい話が聞けて、良かった(2※1)
- ・元寇からめ、金沢北条氏、称名寺のこと、さらに一遍上人のことまで、興味深い話だった(9※3)
- ・時代の変遷を細かく説明され大変参考になった(2)
- ・絵と地図を利用した説明でわかりやすかった(1)
- ・レジュメも丁寧で、まとまっていて参考になった(4)
- ・一遍上人絵伝の場所の特定が良かった(3)

- ・わかりやすく、時間の経過を忘れた（１）
- ・蒙古と元寇の意味合い、高麗との関係が良くわかった（２）
- ・御家人の九州領地のことを知ることができ、大変参考になった（１）
- ・先生が調査された独自説の説明を話されたことが印象的であった（２）
- ・後半部分にもう少し時間と力を入れてほしかった（２）
- ・昨年来の学習会のおさらいでもあったが、良い内容だった（２）
- ・人物の役職、階級、身分をその都度、解説してくれて良かった（１）
- ・北条得宗家の人々が短命だったことは時代を知るうえで良かった（１）
- ・長門、鎮西探題に関わる詳しい話が良かった（２）
- ・金沢との関係は今一つの感あり（２）
- ・先入観をもつことの反省（１）
- ・金沢の宗派の話が良かった（１）
- ・時間軸で話が進むと良いと感じた（１）
- ・羅列説明に終わったようだった（１※１）

3. 盛本昌広講師に講演希望のテーマ

- ・ペリー来航あたりから幕末、近代まで（１※１）
- ・時宗について（２※１）
- ・本能寺の変の再検証（４※１）
- ・戦国時代の久良岐郡のこと（１）
- ・伊丹氏のこと（１）
- ・昨年来の学習会のおさらいでもあったが、良い内容だった（２）
- ・続きを是非また、中世の身近な話の講演（６）
- ・元寇時の武士の戦法や、迎撃施設、防御について（１）
- ・続きを是非また、中世の身近な話の講演（６）
- ・元寇時の武士の戦法や、迎撃施設、防御について（１）
- ・古河公方と太田道灌の戦い（１）
- ・足利尊氏と鎌倉の関係（１）
- ・鎌倉時代に興った仏教について（１）
- ・金沢、横浜の地理について（１）
- ・金沢合戦について（１）
- ・運営委員にお任せ（１）

4. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェックなし
25名(※3名)	18名(※2名)	5名(※2名)	6名(※1名)

- ・ご苦労様です、ありがとうございました（３※１）
- ・円滑に運営されたと思う（４※１）
- ・受付業務に不慣れを感じた、ビジターにちょっと不親切（１※１）
- ・中世の勉強は解りにくいので、このような解説がつけば理解しやすい（１）
- ・今回の演題と演者が良かった（１）

5. “わ”の会について

- ・会員外なのに出席することができてありがとうございます（１※１）
- ・土曜日の催しの割に、現役世代が少ないのは淋しい（１※１）
- ・一般の人に公開講座を拡げられるようにお願いします（１※１）
- ・一年に一度くらいの割合で、マクロ「日本史」の講座を（１）
- ・分科会をもっと増やして（１）
- ・講演会の回数をもっと増やして（１）
- ・また、このような会をお願いします

「寺社を巡る会」活動記録 H27年度 第9～11回

第9回 DVD鑑賞「百寺巡礼 X」

開催日 : 平成28年 2月 4日(木)

開催場所 : 富岡並木地区センター

参加人数 : 男性 29名 女性 8名 合計 37名

DVD鑑賞 「五木寛之・百寺巡礼X」 ～ 今回は以下5寺を鑑賞した。

一畑寺	: 臨済宗	創建	: 寛平6年(894)(伝)	島根県出雲市
清水寺	: 天台宗	創建	: 用明2年(587)	島根県安来市
瑠璃光寺	: 曹洞宗	創建	: 14世紀後半	山口県山口市
阿弥陀寺	: 華嚴宗			
	真言宗(兼宗)	創建	: 文治3年(1187)	山口県防府市
東光寺	: 黄檗宗	創建	: 元禄4年(1691)	山口県萩市

今回は島根県・山口県の古刹5寺を鑑賞しました。

五木寛之氏の解説は、いつもながら、おだやかな語り口で、分かりやすく紹介され、引き付けられながら、興味深く鑑賞する事が出来ました。

今後も年間に2回(2月・8月)座学 DVD鑑賞「百寺巡礼」を継続的に企画していく事を考慮していきます。

(金久保 常二 記)



鑑賞したのは五木寛之の「百寺巡礼」私たちの心のふるさとはどこにあるのか?
それを探して始まった百寺巡礼

第10回 梅香る都筑の丘に点在する古刹を訪ねる（都筑地区）

開催日：平成28年 3月 3日（木）

参加人数：男性 27名 女性 5名 合計 32名

コース：仲町台駅～折本農業専用地区～淡島神社～早苗地藏～真照寺～源東院～東方農業専用地区～天満宮(昼食)～龍雲寺～都筑スポーツセンター～以津院(法話拝聴)～浄念寺跡～宗忠寺～JR横浜線 鴨居駅(解散)

奈良時代にはここに郡役所が置かれていたなど都筑は歴史のある土地である。昭和までは雑木林が続く丘陵地帯だったが、横浜市の港北ニュータウン建設事業の折、縄文・弥生時代の遺跡が数百 発掘されたと言われる。現在も諸所に点在する古刹と往時の面影を辿り、訪ねた。

仲町台駅からニュータウン計画の一環として確立された都市型 折本農業専用地区を回りながら、淡島神社に着く。祭神は小彦名命以下4柱。江戸時代以前、和歌山加太の淡島神社より分祀鎮座したといわれる。江戸から多くの女性が針供養のため訪れていたと言う。折りしも3月3日は大祭祭礼中で女性達の賑わいに出くわした。

次に早苗地藏、天文年間 了信という旅の僧が村の水不足解消のため、村人達と山の開創を完成させ、その恩徳を偲び安置した石仏。続いて清龍院真照寺、浄土真宗大谷派 親鸞、蓮如の大きな像がある。名木古木が多く百日紅や白もくれんが立派。詩人、作詞家の佐藤惣之助がこよなく愛したと言われる自然の中の寺である。

次は源東院西光寺、この辺りは浄土宗の寺院が多い。本日訪れた寺跡を含め6寺のうち4寺が浄土宗、

天文年間 小田原北条氏の時代が何か関係あるのか。ここにある子安弁財天は黒色立像、厨子の内側は金箔で極彩色の七福神が描かれている。

再び東方農業専用地区を通過し、次に東方天満宮、祭神菅原道真公、創立不詳。250本の紅白梅、中には中国の緑萼梅もある。ここ梅ノ木の下で昼食を摂る。

午後の最初は浄土宗燈松院龍雲寺、ここの名古木菩提樹の下に釈迦の苦行像がある。

続いて曹洞宗の寺院、以津院、かつては山寺だった名残を今も残す。室町後期の開創。本堂において住職の法話を拝聴する。江戸時代寄贈されたという十六羅漢が安置されている。像としては珍しく金箔が施されている。

この後、関東大震災で消失した浄土宗、浄念寺跡を見ながら最後の参拝は、隆香院宗忠寺、浄土宗。文禄3年、領主小笠原宗忠による開基。10年前に建立の山門は立派。宗忠は徳川家康の幕下で功をあげ、この領地を賜り、更に関が原役後犬山、佐倉、笠間等の城主を勤めた。引退後、当地へ戻り小学校教育等に力を注いだと言う。春うららの中、ららぽーと横浜を經由し鴨居駅まで歩き解散した。

(寺田 英男 記)



淡島神社 拝殿



宗忠寺（浄土宗）本殿

第11回 高島山公園から壇林の豊顕寺を訪ねる（神奈川県南部地区）

開催日：平成28年 4月 7日（木）

参加人数：男性 18名 女性 2名 合計 20名

コース：横浜駅西口～東横フラワー緑道～大綱金刀比羅神社（一里塚）～本覺寺（青木城址）
～三宝寺～聖蹟～高島山公園（望欣台の碑・弁玉歌碑）～横浜ハリストス正教会（昼食）
～愛染地蔵尊～鶴亀橋跡～延命地蔵尊～豊顕寺～市営地下鉄三ツ沢上町駅（解散）

悪天候で負担軽減のため予定の豊顕寺市民の森と戦没者慰霊塔を取り止め、参加20名を3班に分け定刻前に横浜駅前を出発した。

横浜駅西口前から旧東海道に面する大綱金刀比羅神社に向かう。鳥居横には旧東海道の7番目の一里塚の碑がある。

続いて横浜開港後アメリカ領事館となった曹洞宗 青木山本覺寺（本尊 地蔵菩薩）へ向かう。本寺は開山当初は臨済宗であったが16世紀に兵火による荒廃の再興のため改宗した。山門横に横浜開港に尽力した時の外国奉行岩瀬忠震の顕彰碑がある。この寺の裏山に後北条の忠臣多米氏の青木城址がある由。続いて浄土宗 瑠璃光山三宝寺（本尊 釈迦如来坐像）に行く。本尊は弘法大師の一刀三礼の薬師如来であったが戦災で焼失し、現在の本尊は大本山芝増上寺より遷座したものである。巨大なコンクリートの高架に支えられた本堂は空中楼閣で一見の価値あり。

続いて昭和天皇が摂政時代に震災直後の大正12年10月1日に行幸された聖蹟碑を右に見

ながら、横浜の大実業家、高島嘉右衛門（引退後は高島易団創始者となる）を顕彰する望欣台の碑、三宝寺21代の弁玉上人の歌碑がある高島山公園に登る。

ここから江戸時代に神奈川宿から豊顕寺にゆく檀林（学問所）への道を通り、横浜ハリストス正教会に行く。予定して下さっていた司祭さんの説教は急用のため伺えなかったが、ネギ坊主屋根頂上の八端十字架と美しいイコン（聖壁画像）群を拝見し感銘を受けた。（その後司祭館にて昼食）。昼食後愛染地蔵尊、鶴亀橋跡（ガーデン橋）、延命地蔵尊を見ながら虫が出るという三ツ沢せせらぎ緑道を通り、多米氏創建の法華宗 法照山豊顕寺（本尊 十界曼荼羅、日蓮上人像）に到着。壮麗な本堂や檀林の門である赤門、翌日の花祭りの準備のできた花見堂を拝見しながら甘茶を頂く本日のハイライトとなった。最寄りの地下鉄三ツ沢上町駅にて、雨中探訪の無事を感謝しつつ解散した。

（山下 晶三 記）



横浜ハリストス正教会



法照山 豊顕寺 本堂

「ふれあいの道歩こう会」定例会概要 NO.13

代表 小俣 悦男

独自コース 34 番「南房総・富山とみさん」(通算 116 回)

富山は昔から海路や漁場を知るあて山ただだけに三浦半島からも目立って見える双耳峰である。別称金毘羅峰の富山北峰は十一州一覽台とも呼ばれるほど見晴らしが良く、遠く伊豆大島や富士山も眺望できる。富山は江戸時代の文豪曲亭馬琴の長編小説南総里見八犬伝のプロローグと終焉の舞台となった山でもある。なお、帰路は浜金谷の一つ手前の保田駅(鋸南町)で途中下車、「頼朝桜」を見学した。

実施日：平成 28 年 2 月 18 日(木) 天候：曇りのち晴れ

コース所在地：千葉県南房総市。 歩行時間・距離：歩行時間 約 5 時間 歩行距離 約 15km

参加者：18 名(男性 11 名 女性 7 名)

交通：<往き>集合 8:00 東京湾フェリー久里浜港待合室。久里浜港 8:20 出航~~金谷港 9:00 着 浜金谷駅 9:30 発 ⇒岩井駅 9:41 着

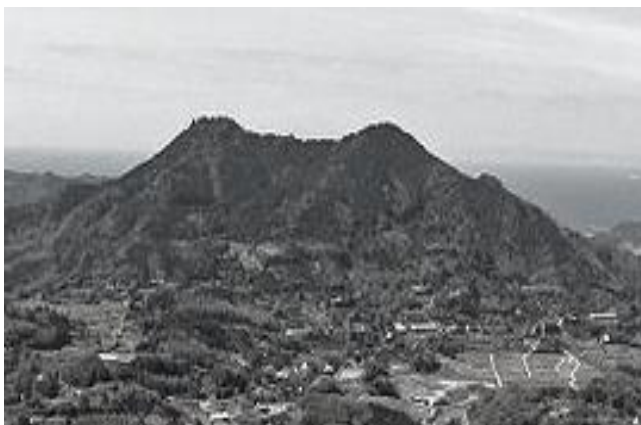
<帰り>岩井駅 15:33 発 ⇒保田駅 15:40 着(保田川沿いの頼朝桜見物) 16:41 発⇒浜金谷駅 16:45 着 金谷港 17:20 出航 ~~久里浜港 18:00 着 解散

コースと時間：岩井駅横公園で準備体操 10:00 発 ⇒福満寺・富山遊歩道入り口 10:30 発 ⇒4 合目 11:05 発 ⇒富山南峰 11:40 発 ⇒富山北峰 11:50 着(昼食) 12:45 発 ⇒伏姫籠穴 13:45 発 ⇒富楽里とみやま道の駅(買い物) 14:40 発 ⇒岩井駅 15:20 着(コーヒータイム) 15:33 発⇒保田駅

15:40 着(保田川沿い頼朝桜見物) 保田駅 16:41 発

ご存知でしょうか！ *双耳峰とは字の如く、耳のような二つの頂をもった山をいう。双耳峰の中で谷川岳(群馬・新潟)だけが、オキノ耳・トモノ耳と唯一耳の字のつく頂をもっている。他に富山はじめ沢山ある双耳峰の中からいくつか列挙すると、トムラウシ山(北海道)の西峰・東峰。燧ヶ岳(福島)の東俎峯・西柴安峯。筑波山(茨城)の女体山・男体山。四阿山(長野・群馬)の東峰・西峰。鹿島槍ヶ岳(富山・長野)の南峰・北峰。 *頼朝桜：石橋山の戦いで敗れた源頼朝が小舟で千葉県鋸南町近くの竜島海岸に上陸した史実から伊豆とのつながりで河津桜に「頼朝桜」の愛称をつけた。他にソメイヨシノ、しだれ桜など、町内を流れる保田川沿いを核に 14,000 本の桜を植樹、日本一の桜の名所を目指している(鋸南町役場)とのこと。

春兆す富山ハイク賑々し一税



富山(とみさん)は千葉県南房総市にある双耳峰の山。右が北峰(349.5m)、左が南峰(342.0m)



北峰山頂での集合写真

独自コース 35 番「ザゼン草と小倉山&恵林寺・甘草屋敷」 (通算 117 回)

参加者はビジター 2 名を含め 22 名。まずはザゼン草の群生地を通して小倉山 (954.8m) へ登り富士山や鳳凰三山をはじめ南アルプスの山々の眺望を堪能した。下山後はタクシーを効率的に使い武田信玄の菩提寺である恵林寺、さらには重要文化財の旧高野家住宅「甘草屋敷」で雛の吊るし飾りを、二箇所ともガイドの説明付きで見学した。また、この地は桃の里塩山桃源郷として夙に有名である。これは当番が参加者に楽しんでもらいたいとするサービス精神とアイデア、かつ、事前の十分な調査で成しえたものである。



ザゼン草

実施日：平成 28 年 3 月 17 日(木) 天候：快晴

歩行距離など：歩行時間 約 3 時間 歩行距離 約 8km 参加者：22 名(男性 15 名 女性 7 名)

コース所在地：山梨県甲州市

交通：〈往き〉東神奈川 6:14 発～八王子 7:08 着 八王子 7:18 発～塩山 8:44 着 塩山駅

北口 8:50 発～ざぜん草公園 9:05 着 (タクシー)

〈帰り〉塩山発 15:59～八王子着 17:28 八王子発 17:30～横浜着 18:36

コースと時間：ざぜん草公園・体操後 9:20 発⇒ザゼン草群生地 9:30 着⇒小倉山(954.8m)展望台

10:05 着⇒上条山 (996m) 10:55 着⇒上条峠：昼食(11:20～11:55)⇒ざぜん草公園

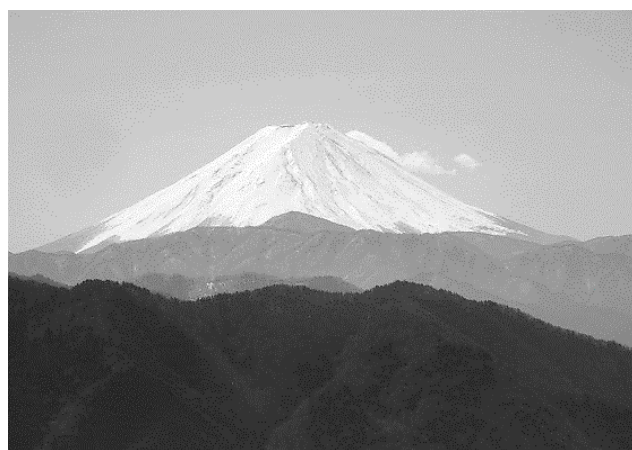
(750m) (オレンジタイム) (12:50～13:15) タクシーにて⇒恵林寺、(ガイド付き。見学後、コーヒータイム) (13:30～15:05) タクシーにて ⇒甘草屋敷 (ガイド付き、ひな飾り展示見学) (15:20～15:50)

ご存知でしょうか！*恵林寺：乾徳山恵林寺といい戦国時代の名将武田信玄の菩提寺である。「安禅必ずしも山水を須(もち)いず、心頭滅却すれば火もまた涼し」、これは天正 10 年 (1582) 4 月 3 日、恵林寺が織田信長の軍に包囲され、焼き打ちによって全山ごとく灰燼に帰した際、炎上する三門楼上で唱えた快川(かいせん)和尚の遺偈(ゆいげ)として知られる。臨済宗妙心寺派の恵林寺は、鎌倉時代末期に名僧夢窓国師によって建立された。歴代住職はほとんど日本史、仏教史上に名をとどめる名僧、高僧であったことから、優れた寺宝も多く、歴史博物館、信玄公宝物館には戦国武田氏、信玄に関する文化財が年間を通して一般公開されている。なお、四脚門(赤門)は重要文化財であり、夢窓国師築庭は国指定名勝である。
*ザゼン草：サトイモ科の植物で僧侶が座禅を組む姿に見えることが名称の由来。別名ダルマ草とも呼ぶ。他に、主な群生地は栃木県太田原市、滋賀県高島市、鳥取県智頭町がある。

あたたけし桃源郷は燦々と一税



小倉山山頂展望台での集合写真



上条峠からの富士山

独自コース 36 番「桜と展望の湘南平と高麗山」 (通算 118 回)

今回のコースは約 12 年前(平成 16 年 7 月)に歩いた、関東ふれあいの道 神奈川県 7 番コースとほぼ同じコース。機会があったら桜の時期に皆で来たいとの思いが漸くかなった。湘南平は広い山頂中心にソメイヨシノ、オオシマザクラなど約 2,000 本が植えられ、高麗山と共に神奈川県の「景勝 50 選」に選ばれている。

実施日：平成 28 年 4 月 8 日(金) 天候：曇り時々晴

歩行距離など：歩行時間 約 5 時間 歩行距離 約 10km 参加者：16 名(男性 10 名 女性 6 名)

コース所在地：神奈川県平塚市・大磯町

交通：<往き>集合場所・時間 平塚駅東口改札口 10:00

コースと時間：平塚駅 10:00 発 ⇒平塚地名の碑 10:30 着 ⇒高来神社 11:10 着 ⇒高麗山 11:50 着⇒湘南平 12:40 着(昼食) 13:20 発 ⇒島崎藤村邸 14:10 着 ⇒藤村邸の前の小公園でオレンジタイム(14:25~35) ⇒こゆるぎの浜 14:50 着 ⇒鳴立庵 ⇒地福寺(島崎藤村の墓地) 15:20 着 ⇒大磯駅 15:40 着 解散

ご存知でしょうか！

*高麗山(こまやま)は神奈川県の大磯町と平塚市に跨る山。歌川広重の『東海道五十三次』では平塚宿にその特徴のある姿が描かれており、大磯丘陵の東端にあり、標高 168m。広葉樹の自然林が残り、「21 世紀に残したい日本の自然 100 選」に選ばれている。名称は高句麗(中国東北部から朝鮮半島北部にわたる地域)からの渡来人に由来する高麗寺山から現在の高麗山になった。定かではないが、7 世紀に滅亡した高句麗からの亡命者の一部がこの付近に定住し、寺院を建立してこの名をつけたと考えられており、付近の古墳群から出土した装飾品や山の南側に、もろこしが原、現在は唐ヶ原という地名が残っていることなどからも推測できる。

花曇り湘南の浜開々と一税



上は特徴のある山容の高麗山。右は湘南平(千畳敷)の桜と電波塔を背景に集合写真

掲載記事並びにコースに関わるお問い合わせは下記にお願いいたします。

小俣 悦男メールアドレス：e-omata@jcom.zaq.ne.jp なお“わ”の会の

HP「ふれあいの道独自コース」には定例会ごとに多数の写真がカラーで掲載されております。

平成27年度 第20回 鑑賞会

〈鑑賞日：2016.1.25〉

グリーンマイル The Green Mile

製作：1999年 アメリカ映画

上映時間：188分

監督：フランク・ダラボン

原作：スティーヴン・キング

出演：トム・ハンクス、マイケル・クラーク・ダンカン

(あらすじ)

1995年、老人ホームの娯楽室で名作『トップ・ハット』を見たポール・エッジコム（T・ハンクス）の脳裏に60年前の記憶が甦る。大恐慌下の1935年、ジョージア州コールド・マウンテン刑務所の看守主任ポールは死刑囚舎房Eブロックの担当者であった。死刑囚が電気椅子まで最後に歩むリノリウムの廊下はグリーン・マイルと呼ばれていた。部下は副主任のブルータル（デイヴィット・モース）はじめ頼れる連中揃いだが、州知事の甥である新人パーシ（ダグ・ハッチソン）だけは傍若無人に振舞っていた。そんなある日、ジョン・コーフィ（M・クラーク・ダンカン）という大男がやってきた。幼女姉妹を殺した罪で死刑を宣告されたコーフィは、実は手を触れただけで相手を癒やすという奇跡の力を持っていた。彼はポールの尿道炎を治したのを皮切りに、パーシーに踏みつぶさ

れた同僚のドラクロワが飼っていた鼠のミスター・シングルズの命を救った。ドラクロワは翌日処刑されたが、パーシは残酷にも細工してドラクロワを電気椅子で焼き殺した。コーフィの奇跡を目の前にしたポールらはパーシーを拘禁室に閉じ込めてコーフィを密かに外へ連れ出し、刑務所長の妻で脳腫瘍で死を待っているメリンドの命を救わせた。房に帰ったコーフィは、拘禁室から解放されたパーシーをいきなり捕まえるや、メリンドから吸い取ったウイルスを吹き込んだ。するとパーシーは厄介者の兇悪犯ウオートンを射殺し、そのまま廃人になった。ウオートンこそ幼女姉妹殺人の犯人だったのだ。ポールはコーフィに手を掴まれ、彼の手を通じて脳裏に流れ込んで来た映像で真実を知った。ポールは無実のコーフィを処刑から救おうとするが…

(解説)

映画の監督、フランク・ダラボンは1994年、スティーヴン・キングの原作で傑作『ショーシャンクの空』を送り出したが、5年後、同じS・キングの原作で『グリーンマイル』を製作した。前作同様、舞台は刑務所だが、この映画では死刑囚ばかり収容した刑務所である。独房から電気椅子に至る長い廊下は「グリーンマイル」と呼ばれ、死刑囚は歩いて電気椅子に座

らせられる。死の恐怖に脅えながら、死を待つ死刑囚と、死を見守る看守との心の交流を描いたヒューマンドラマである。死刑囚の一人に身長7フィート(約2メートル)もある大男がいる。体が大きい気持ちは優しく、それに不思議な「奇跡な力」を持っている。まず、ポールの小便が出にくいという難病を治してしまう。さらに、一旦死んだネズミを生き返らせ、刑務所

長の奥さんの脳腫瘍も治してしまう。人を助ける度に自分の身を犠牲にして全身の力を振り絞るため、疲労困憊で疲れ果てる。ポールはコフィが無実であることを知っていても、救うことはできない。スピルバー

グは試写会の際、4回泣いてしまったと告白しているが、どこで涙を流したのであろうか。スリラーとファンタジーが見事に溶けあった名作(映画評論家川本三郎氏)として評価は高い。

平成27年度 第21回 鑑賞会

〈鑑賞日：2016.2.8〉

太秦ライムライト

製作： 2014年 京都市太秦ライムライト製作委員会他

上映時間：104分

監督： 落合 賢

脚本： 大野裕之

出演： 福本清三、山本千尋、萬田久子、松方弘樹、小林稔侍

(あらすじ)

かつては、「日本のハリウッド」と呼ばれた京都、太秦。太秦の日映撮影所に所属する香美山(福本清三)は斬られ役一筋のベテラン俳優だが、時代劇の衰退に合わせて出番が減ってきた。そんなある日、長年続いたテレビ時代劇『江戸桜風雲録』まで打ち切られ、主演の尾上(松方弘樹)は、「また斬らせてくれ」と香美山に言い残して太秦を去った。斬られ役として出番を失った香美山は、映画パークの「チャンバラショー」に出演するようになった。しかし、長年の腕の酷使によって左腕に力が入らなくなり、そろそろ引退の時期かとも考え始めた。そこに女優志望のさつき(山本千

尋)が殺陣を教えてくれと頼みこんできた。いったんは断ったが、その熱意に負けて教えることにする。一対一の激しい稽古が続き、やがて、さつきはそこで身に付けた殺陣の見事さによって女優として認められ、香美山から巣立っていった。時が経ち、『江戸桜風雲録』の劇場版の製作が決定し、さつきは尾上とともに主演に抜擢された。さつきは撮影所に香美山を訪ねるが、香美山は体調を崩してすでに引退しており故郷に帰っていた。さつきは、香美山に教えを乞い、映画出演を依頼するが断られる。

(解説)

タイトルから想像できるように、チャップリンの往年の名画『ライムライト』の日本版である。日本の時代劇映画は今や滅亡寸前にあるが、『斬られ役』香美山を通して滅びゆく時代劇映画へのオマージュに満ちた作品である。主演の香美山を演ずる福本清三は1958年に東映京都撮影所に入所してから56年、時代劇の斬られ役として、『五万回斬られた男』の異名を持っている。福本が語り下ろした自伝的著作をもとに映画は作られ、京都市と製作者と脚本を兼ねた大野

裕之らが製作委員会を作り、一般からの寄付を募ってこの映画ができたという。チャップリンの『ライムライト』に比して、この映画は、さつきの清三に寄せる慕情より、子弟愛が描かれ、映画のモチーフは香美山の人生であり、それがまた、俳優福本清三の人生に重なっていく。『ラストサムライ』(2003年)に福本は出演したが、主演のトム・クルーズはその巧みな斬られ方を絶賛したという。福本清三(1943年～

平成27年度 第21回 鑑賞会

〈鑑賞日：2016.2.8〉

エデンの東 East of Eden

製作：1955年 アメリカ映画 シネマスコープ カラー
監督：エリア・カザン 上映時間：115分
原作：ジョン・スタインベック

出演：ジェームス・ディーン、ジュリー・ハリス、ジョン・ヴァン・フリート
第8回カンヌ国際映画祭受賞アカデミー
助演女優賞受賞（J・ヴァン・フリート）

（あらすじ）

1917年、カリフォルニアの農場経営者アダム（レイモンド・マッセイ）にはアロンとキャル（ジェームス・ディーン）の二人の双子の息子がいる。アダムは兄のアロンのみを信頼し、キャルは自分は父親から愛されていないと悩み、時には反抗的になる。二人の母親のケイト（ジョン・ヴァン・フリート）は死んだと聞かされているが、実は父親と別れて、少し離れた漁港で酒場を経営している。それを知ったキャルは密かに母親に会いに行く。キャルは父親に疎まれているのは自分が母親に似ているからだと思っている。キャルの気持ちを分かってくれるのはアロンの恋人のアブ

ラ（ジュリー・ハリス）だけである。アダムはレタスを栽培しており、レタスを冷蔵して長く保存する方法を考え、貨車で市場に輸送中、雪崩が起きて列車が止まり、氷が解けてレタスが腐り、大損害を蒙る。父親の損害を取り戻そうとキャルは母親に資金を借り、ドイツとの戦争を利用して相場で儲け、アダムの誕生日に贈ろうと考える。アダムの誕生日、アロンは恋人のアブラとの婚約を報告し、アダムの祝福を受けるが、キャルの贈り物は戦争で儲けた金はいらないと拒絶される。失望したキャルはアロンへの憎しみから死んだと思っている母親のケイトにアロンを会わせる。…

（解説）

アメリカのノーベル文学賞作家、ジョン・スタインベックの小説『エデンの東』から監督のエリア・カザンは「第4章父と子」の物語に焦点をあて、聖書の時代から続く親子、兄弟の愛と相克を不変のテーマとして家族のドラマを作った。兄のアロンは父親に愛されているのに弟のキャルは父の愛情を得ようと努めるが、かえって誤解され、孤独感は深まるばかりである。キャルに扮するジェームス・ディーンの反抗と哀願、挑戦と挫折という揺れ動く若者の姿を見て当時の若者は自分の姿に重ねたのである。ジェームス・ディーンは1931年1月生まれ。『エデンの東』で彗星のよ

うに登場し、この若き俳優により『エデンの東』は不朽の名作となった。しかし、ディーンは1955年、9月30日愛車ポルシェで衝突事故を起こし、24歳でこの世を去った。

ディーンは『エデンの東』『理由なき反抗』（1954）『ジャイアンツ』（1955）と僅か3本の映画しか残していないが、この3本の光芒は60年を経た今なお消えていない。

主題曲のレナード・ローゼン作曲の流麗なワルツは一世を風靡し、今日でも映画音楽の上位にランクされ、多くの人に愛されている。

平成27年度 第22回 鑑賞会

<鑑賞日：2016.2.22>

素晴らしき哉人生 It's Wonderful Life

製作：1946年 アメリカ映画 上映時間：130分
監督：フランク・キャブラ
原作：フィリップ・ヴァン・ドレン・スターン
主演：ジェームズ・スチュワート、ドナ・リード

(あらすじ)

コネティカット州の小さな町ベドフォードフォールに住むジョージ（J・スチュワート）という男が、自殺しそうだというので、天国からジョージを自殺させないようにと見習いの天使クラレンスが派遣される。ジョージは世界中を旅行することを夢見ていたが、住宅金融会社社長の父親の急逝でカレッジに行くのをあきらめて、後継社長となり、幼馴染みのメアリー（ドナ・リード）と結婚し、4人の子供にも恵まれ、幸せな日々を送っている。ジョージの心のよりどころは、ベドフォードフォールの勤労者が自分の家を持つようにすることであった。しかし、儲け主義一方の強欲な銀行家ミスター・ポッターはなにかとジョージ

を目の敵にして事業を妨害する。ある日、ジョージの叔父で、会社の会計を預かるピリーが、ポッターに読みかけの新聞と一緒に8千ドルの大金を渡してしまい、ポッターはそれを猫糞してしまう。8千ドルの大金が紛失したので、その責任をジョージが取らざるをえなくなり、絶望したジョージは自殺を考える。見習い天使のクラレンスは、もしジョージが生まれなかったら、この町の友人や家族がどうなったかを再現して見せる。そして、ジョージがいかに素晴らしい人生を送ってきたかを知らせる。自分がこの世に生まれてきたことが社会に役立っていることを知り、自殺を取りやめる……

(解説)

第二次大戦後、復員したフランク・キャブラは、ウィリアム・ワイラー、ジョージ・スティーヴンスの3人で「リバティ映画社」を設立し、芸術的娯楽主義の映画を作ることを目的とした。その第1作をキャブラが担当し、本映画を製作した。キャブラはこれまで『オペラ・ハット』『スミス都へ行く』など理想主義と善意に満ちた心温かい映画を送りだしたが、この映画もまた、キャブラらしい戦後復活第1作である。もし、

ジョージがこの世にいなかったら町はどうなったのかと見習い天使の提示した社会は、人の心は荒れ果て、すさんだ町になっている。自分の行いが多くの人のためになり、社会の人の役に立っていることを知ったジョージは生きる希望を取り戻す。

この映画はアメリカ映画協会が選ぶ「感動の映画ベスト100」では第1位、同協会のアメリカ映画ベスト100」では11位にランクされている。

平成27年度 第23回 鑑賞会

<鑑賞日：2016.3.14>

サンセット大通り Sunset Boulevard

製作：1950年 アメリカ映画 上映時間：110分
監督：ビリー・ワイルダー
脚本：C・ブラケット、B・ワイルダー、D・M・マーシュマン
主演：グロリア・スワンソン、ウィリアム・ホールデン、

(あらすじ)

ハリウッドのサンセット大通りに面するある邸宅のプールに若い脚本家ジョー・ギリス(W・ホールデン)の死体が浮かんだ。死んだジョーはそのいきさつを語る。シナリオライターのジョーは映画会社へシナリオを持ちこむが、断われ続きで、貧窮のどん底にあった。ある日、月賦の不払いから自動車会社の取り立て屋から追いかけられたジョーは、サンセット大通りの古びた大邸宅に逃げ込んだ。そこには、サイレント女優の大女優ノーマ・デスモンド(グロリア・スワンソン)が、かつての監督であり、最初の夫だったマックス(E・F・シュトロハイム)を執事として過去の夢に生きていた。ジョーが脚本家だと知ると、ノーマは自分が書き上げ、主演を念願している『サロメ』の脚本の推敲を頼み、ジョーを邸に寝泊まりさせるようにした。取り立て屋に追われているジョーにとって

その仕事は渡りに舟で、シナリオの推敲をしているうちにずるずると深みにはまっていった。そして、いつしかノーマはジョーを愛するようになっていた。ある日、撮影所から電話があった。出演依頼の電話と信じたノーマは喜んで、旧知のセシル・B・デミルに会いに撮影所に向かった。しかし、要件はノーマ所有のクラシック・カーをビング・クロスビー主演の映画に使わせてほしいとのことであった。ノーマを待つ間、ジョーは顔見知りの脚本部員ベティ(ナンシー・ネルソン)に出会う。若い、清純なベティに心惹かれたジョーは二人で脚本を共作する約束をする。彼女の部屋で、毎夜、二人でシナリオ作りを続けるうちに、いつしか二人は結ばれ、それがノーマの知るところとなった。……

(解説)

夢の都“ハリウッドの内幕ものは数多くあるが、ビリー・ワイルダーが監督した本映画が最も評価が高い。この映画ほど、忘れられた大スターの悲劇を容赦なく辛辣に描いた映画は他にはあるまい。試写を見たMG Mの社長は「何故こんな映画を作ったのだ」とワイルダーを罵倒したというが、それだけハリウッドの現実を浮き彫りにしたのである。

この映画の成功は、優れた脚本と演出にあるが、何よりも主演のグロリア・スワンソン本人が投影された大ぶりの演技力が、映画に迫力を与えている。撮影時、

スワンソンは53歳、映画のノーマ同様、かつての大スターであり、20年振りの復帰でもあった。

相手役のホールデンはこの映画が出世作となり、その後、一気にスターダムに上り詰めた。50年度のアカデミー賞では作品、監督、主演男優、主演女優賞など8部門にノミネートされたが、オリジナル脚本賞など3部門の受賞にとどまった。

しかし、ゴールデン・グローブ賞では作品、監督、主演女優賞を贈り、『サンセット大通り』を讃えたのである。

平成27年度 第24回 鑑賞会
〈鑑賞日：2016.3.28〉

ツィゴイネルワイゼン

製作：1980年 シネマプラセット 上映時間：145分
監督：鈴木清順
脚本：田中陽造
制作：荒戸源次郎
主演：原田芳雄、藤田敏八、大谷直子（二役）、大楠道代
キネマ旬報ベストテン第1位
日本アカデミー賞最優秀作品賞受賞

（あらすじ）

昭和初期、陸軍士官学校ドイツ語教授の中砂（原田芳雄）が同僚の友人青地と、サラサーテが自ら演奏している「ツィゴイネルワイゼン」のレコードを聴いていると音楽のほかに人の声が聞こえてきた。中砂は青地に理由を聞いても分からない。破天荒な生き方をしている中砂は旅に出て、溺死した女の連れと間違えられたが、青地が旅先まで来て身分を証明してくれたので救われた。二人の周囲を三人連れの盲目の門付けが通り過ぎ、二人は興味を持って見ている。中砂と青地は宿をとり、小稲（大谷直子）と言う芸者を呼んだ。中砂は旅を続け、青地は湘南の家に戻った。中砂が結婚した。青地が新居を訪ねると新妻の園が小稲に瓜二つなのに驚いた。中砂に豊子という女の子が生まれた。ほどなくして、中砂から、妻の死

と乳母を雇ったという知らせが入った。青地が中砂の家を訪ねると乳母は旅先で呼んだ小稲だった。青地は湘南の瀟洒な家に妻の周子（大楠道代）と住んでいる。周子の妹の妙子（真喜志きさ子）は入院中で、時折、中砂は妙子を見舞うこともある。妙子を見舞った青地は妙子から周子が中砂と妙子を見舞に来た際、中砂の目に入ったごみを、周子が舐めてとったという話を聞き、青地は二人の関係を疑う。春、桜吹雪の季節に旅先で、中砂は麻酔薬を吸ったことが原因の事故で死んだ。しばらくして、小稲が青地を訪ね、中砂が貸したドイツ語の本を返してほしいといってくる。小稲がドイツ語を自由に話すのを不思議に思った青地が聞くと、中砂の遺児である豊子が夢の中で中砂と話していたのを聞いたのだという……

（解説）

この映画は、当初、一般の映画館での上映ではなく、東京タワーの駐車場にドーム型のテントを張りそこで上映するというスタイルがとられた。興行スタイルの独自性と独特の映像美は評判となり後に映画館で上映されるようになった。監督の鈴木清順は日活時代、アクション映画が多かったが、大正から昭和初期を題材として情緒性豊かな作品を撮っていた。しかし、難解な映画が多いため、監督を干され、10年の空白の後に撮った『悲愁物語』（1977年）も不評で、さらに3年

後に監督したのが本映画である。鈴木清順の独特の映像美は「清順ワールド」ともいわれ、その世界に浸れるか浸れないかで、映画の評価は異なってくる。1980年公開の『ツィゴイネルワイゼン』は批評家からの評価も高く、黒澤明監督の『影武者』を押さえてキネマ旬報ベストテン第1位となり、その他の主要コンクールでも受賞を果たしている。鈴木清順監督の『陽炎座』（1981年）『夢二』（1991年）と本作は清順の「浪漫3部作」と言われている。

「浮雲俳句会」 抄録 No. 3 3

代表 北野 清市

96 回例会 平成 28 年 1 月 31 日

都合により句会は休会にした。兼題の①佐渡ヶ島、②睦月・人事(遊楽・情緒)と当季雑詠 2 句。計 76 句の投句があった。

兼題

海駆けて吹雪く中なる佐渡ヶ島 一清
七十階宇宙の端の日向ぼこ 一清

97 回例会 平成 28 年 2 月 28 日

句会は行われ、兼題①淡路島、②時候(初春)と当季雑詠 2 句。計 72 句の投句があった。会員が選んだ高点句。

高点句

萬苜(ちしゃ)洗ふ潮瀬果てなき淡路島 和女
よちよちの靴の踏む草駒返る 十九
バスを待つ老女の笑みや春兆す 二祥

98 回例会 平成 28 年 3 月 27 日

[秀作]

天賞

大島の流人なぐさむ藪椿 重九

俳句の形は虚子型の客観写生の手本(名・名・動・名)。伊豆大島は、伊豆諸島の北端に位置した伊豆諸島最大の島である。面積は 91 k m²。伊豆半島から 25km と近く、定期航路も就航中。一方では活火山の三原山(764m)があり、お鉢巡りで有名。椿祭りは毎年 1 月～3 月の間に実施される。江戸時代幕府に距離が近く、おおくの流人で賑わった。これらの流人をなぐさめるのが藪椿であるというのである。

地賞

三溪園春景しかと定まれり 一馬

兼題の見事な情景詩。三溪園は、横浜市の東端、本牧岬の南西につづく一帯。もと横浜における絹織物の豪商・原 富太郎の庭園。現在は横浜市が 20 万 m² と大部分を公園にしている。園内には鎌倉(東慶寺仏殿)・桃山(京都聚楽第別殿の臨春閣など)や古い時代の合掌造民家が移築されていて、日本建築史の宝庫となっている。岡倉天心はじめ明治・大正時代の画壇の大家が育てられた地としても有名である。

横浜俳話会では、例年 2 月中旬に俳句大会を実施していたが、今年は 40 回「三溪園俳句大会」を本日(3/27)園内の鶴翔閣で開始する運びとなっている。例年やっと臥竜梅がひそかに咲きはじめるのだが、今年は他の木々も芽吹き春さ中の大会となる。掲句にあるように<春景しかと定まれり>と、春真っ盛りの三溪園となるだろう。

人賞

指先のまるき水音春の闇 和女

春の闇の水音をめぐる叙情詩。夏闇のような真の闇ではなく、うるんだ、しろじろとした光のあるような闇である。木々の匂ひ、花の香り、それらのこもる情感のある夜である。旧制中学頃の英語のリーダーの「Spring has come. Everything is warring from it's long sleep.」。「春が来た。万物はその長い眠りから覚め油断がない。」を思い出す。

正に、万物は長い冬から目覚め春を謳歌している。特に＜指先のまるき水音＞は＜春の闇＞に微妙である。

〔特選〕 涅槃西風牛人町を眠らせて あきえ

インドを旅した時の句です。ブッダの歩いた道をたどり、ガンジス河近くまで来ると、夕暮れの軒下に牛が2頭、足を折りたたみじっと休んでいました。少し離れたところにも数頭の牛、目を転じると薄暗い路上に人も横になっている姿に気付きました。町全体も照明は少なく、この大地に牛も人も町も同じように生かされているのだと、心に刻みました。

待ちわびし船の上なる臘月 一 梶

蕪村の句に「月おぼろ高野の坊の夜食時」がある、この時期の臘月にはゆったりした格別な情感がある。兩岸の街の灯をみながらゆっくりと進む船上から柔らかく感じられる心地の良い春風が頬を撫でてくれた。寒く長い冬が漸く終わり、待ちに待った心も身体も軽やかになる春が、今此処に、この上もなくしみじみと春を実感。加えて、ヴェールのような薄雲の広がる夜空に、ぼんやりと臘月が見えて来た。この上ない風景に酔いしれた、の景。

春光の溢るる空へ繩梯子 十 九

ありきたりで平凡な「春光の溢るる空」に組み合わせの面白さと出来れば読者の空想力を刺激するユニークさをとの発想から「繩梯子」が浮かんできたもの。誰が垂らしてくれたのかとの疑問にも様々な空想の展開・飛躍が期待できる。それを伝い登る読者（自分）も冒険心に満ち満ちた少年に還る。その時春光溢れる空は現代の理想郷ともなる。

風船を風に持たせて追ふ児かな とも女

ある晴れた春の日のスーパーマーケットの前で、店員が、幼児にゴム風船を配っていた。どの子も嬉しそうにはしゃいでいた。その中の一人が持っていた風船を、風にとられてしまった。その子は、暫く呆然としていた。慌てて追いかけて走ったが、風船は高く上がって行き、とうとう捕えることができなかった。元気に追いかけて走ったが、終に諦め、半ばべそをかいていた。偶然に出会った一瞬のできごとである。風船を追いかける姿は、大変可愛らしく絵のようだったが、本人にとっては、真剣そのものだったことでしょう。

古本の紙の匂ひや春の闇 勇 平

古本の匂いといっても、どんな匂いがするのか言葉で説明することは出来ない。例えば、香水とかバラの花の匂いなどは万人に共通するものであるが、古本の匂いなどは例え鋭い嗅覚の持ち主なら嗅ぐことも出来よう。しかし、この匂いはとても上品な芳しい香りとは言えない。敢えて言えば、黴の匂いに近いかもしれない。掲句の季語「春の闇」はまだ月の出ない、うっすらとした闇をいうが、古本の詰まった本箱のガラス戸を開けると、いわく言い難い懐かしきのこもった匂いがする。

パソコンを使っていて画面が動かなくなったことはありませんか？マウスをクリックしても、「Enter」キーを押しても反応がない状態です。インターネットを見ているときには、最上段に「応答がありません」などと表示されます。この状態をパソコンがフリーズしていると言います。メモリーを限度一杯使っていて情報のやりとりが出来なかったり、プログラムが同じところをぐるぐるまわっているとこの様になります。

この時、電源ボタンを長押ししてパソコンの電源を落してはいけません。この操作をするとパソコンが立ち上がらなくなる可能性があります。まずは1項の操作をして安全にシャットダウンしてから、2項のセーフモードで立ち上げてください。

1. 安全にシャットダウンする

キーボード左下の【Ctrl】キーと【Alt】キーを左手で押しておいて右上の【Del】キーを押します。そうすると画面が単色になって中央に「(コンピューターの) ロック」、「ユーザーの切り替え」、「サインアウト(ログオフ)」、「パスワードの変更」、「タスクマネージャー」、「キャンセル」などと表示されます。また、画面右下隅に電源ボタン(🔌)が現れます。ここで①または②の手順でいったんパソコンをシャットダウンします。

① タスクマネージャー

「タスクマネージャー」をクリックすると右上隅の窓が開きます。これは現在パソコンが実行しているタスク(仕事)を表示しています。ここで、1つのタスクを選択して、右下の「タスクの終了」をクリックすると、選



択したタスクが消えます。そのようにして順次タスクを終了していきます。最後に右上の「X」をクリックしてタスクマネージャーを終了します。

これで、パソコンの操作ができる様になりますのでシャットダウンしておきましょう。

② 電源ボタン (🔌)

手っ取り早く処理するには、画面右下の電源ボタンをクリックします。すると、「スリープ」、「休止状態」、「シャットダウン」、「再起動」とメニューが現れるので、「シャットダウン」をクリックします。これでパソコンをシャットダウンすることが出来ます。

2. セーフモード

パソコンがフリーズした後無事にシャットダウンできたら、セーフモードで立ち上げてください。

セーフモードでは、最小限のシステムファイルとドライバーでパソコンを起動します。新たに入れたソフトウェアや周辺機器が原因で起動しないときも、機能を限定したセーフモードなら立ち上がる可能性があります。セーフモードが起動したら、不具合が直らなか

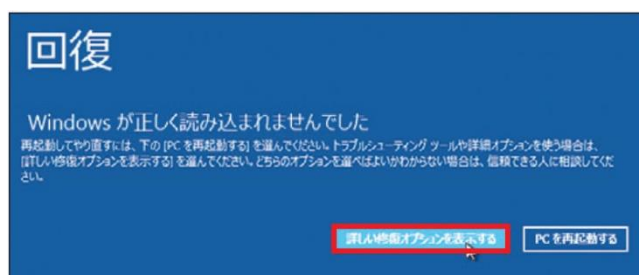
ったときのために、文書や画像などの大事なファイルをUSBメモリーや外付けハードディスクなどにバックアップしておく事をお勧めします。不調になる前にインストールしたドライバーやソフトウェアを削除して、元に戻すことを試みましょう。

a) Windows VISTA、Windows7の場合
セーフモードで立ち上げるには、電源ボタンを押して立ち上げる時に、キーボード最上段にある「F8」キーをトントントンと押し続けます。タイミングが合うと黒地に白文字の「詳細ブートオプション」画面が開きます。ここでメニューが示されるので、キーボード右下の矢印キーで「セーフモード」を選択し

て「Enter」キーを押します。この画面では、マウスが使えないので注意。これで、ドライバーを読み込み暫くしてセーフモードが立ち上がります。

b) Windows 8.1、Windows10の場合
パソコンの起動に2回連続で失敗したときなどに、自動的に下図に示す青地の「回復」画面が表示されます。

ここで「詳しい修復オプションを表示する」を選び、その後「トラブルシューティング」→「詳細オプション」→「スタートアップ設定」と選び、「スタートアップ設定」の画面で、[4] または [5] の数字キーを入力すると、セーフモードが起動します。



「パソコンを使いこなす会」

「ジョン万次郎 漂流記(第1回)」

代表 真田 雅行

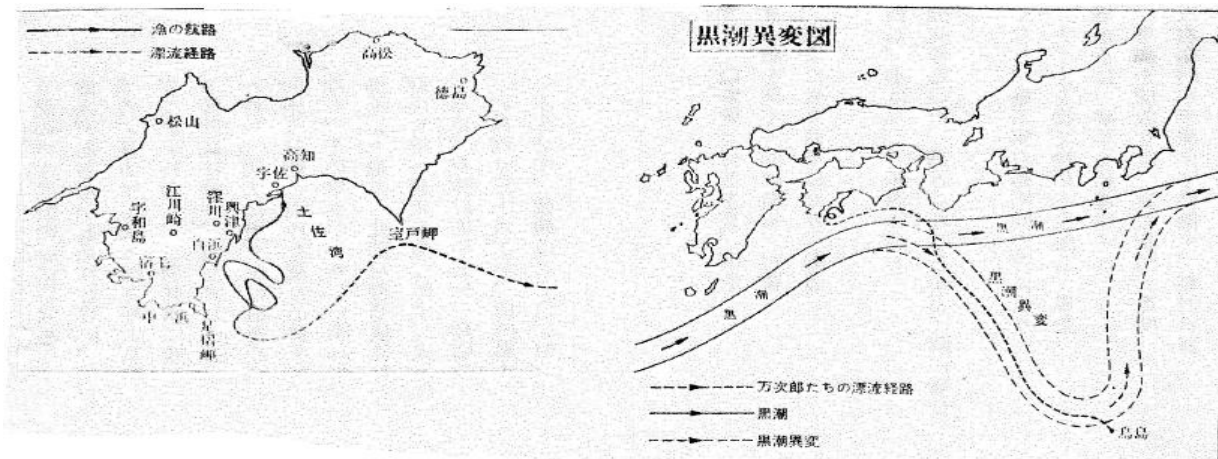
土佐の漁師で14才のジョン万次郎は江戸時代末期の1841年（天保12）、長さ8メートルのカツオ舟で出漁中に遭難し、鳥島でアメリカの捕鯨船に救助され、船長の世話でアメリカで教育を受け、捕鯨・金鉱探掘等をしつゝ世界を駆け巡って約11年後に帰郷、幕府により登用されて鎖国日本に生（なま）の国際情報をもたらして、以後の幕末～明治の日本の行方に大きく貢献した。

昨年「古文書を読む会」ではこの出漁から帰郷までを記した『土佐国漂流人帰朝記事』を読んだので、以下数回のシリーズで概要を披露して参考に供したい。今回はその第1回である。

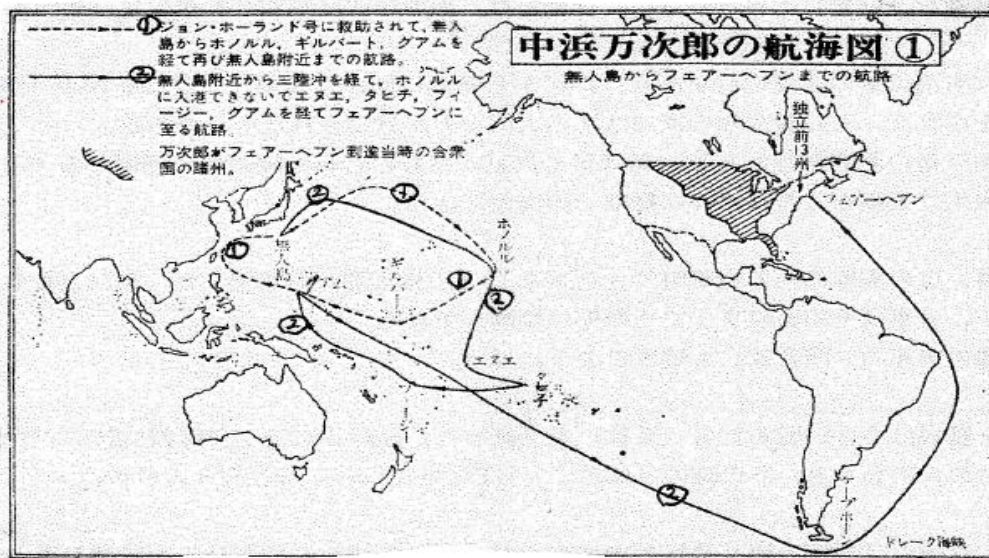
1. 難船漂流—無人島生活(鳥島)—米捕鯨船救助

(10日) (5ヶ月)

- 天保12年（1841年）正月5日、土佐国宇佐浦から小舟（5人乗り、一本帆柱）で漁に出た。
乗組みは万次郎（14才）の外、伝蔵（39才）、重助（25才）、五右衛門（16才）、寅右衛門（26才）の5人。（伝蔵、重助、五右衛門は兄弟）
- 6日、南沖に乗り出し、はえ縄で小魚少々釣り上げ白浜近くで夜を明かす。
- 7日、早朝地嵐で沖に出て類船20艘程の所へ行こうとしたが、伝蔵舟の漕ぎ手が弱い為、足摺山の6、7里沖で漁をした。昼頃岬風（ヤマセ）が吹き出したため、はえ縄を上げて陸へ寄せようとしている時、北西風が吹き出し海上は大荒れとなったので、はえ縄を半分切り捨てたりして陸に漕ぎ寄せようとしたが、風は益々強くなり操船出来なくなった。——黒潮異変——
- 8日、陸地を見ると室津の沖と思え、人家も見えるが艦は折れ、流れたりしているので陸に近寄れない。風潮に任せているうち大波で水舟になってしまった。
- 9日、益々大時化（しけ）水も潮になってしまったので、雨水で粥を焚いた。
- 10日、少し残った米で粥を煮た。敷板を砕いて薪にした。
- 11日、米払底、水もなく飢渴に及ぶ。
- 12日、鷗がたくさん見えたので、島（無人島＝鳥島）が近いと一同で話合った。
- 13日、島が見えた。しかし、波風荒く磯辺につけられないので島を巡って見たところ、一ヶ所舟着出来る場所を見付け、ここに碇を下す。



- 14日、島へ上陸（鳥島）。岩の上に溜り水を見付け、久しぶりに口を潤す。
無人島だったが、藤九郎（あほう鳥）が多くいて、3羽捕獲して食べた。
- 15日、打ち上げられた舟から物を取ってきて岩穴に寝所を拵えた。（怪我人及び病人計2名）
島廻り36丁（註：4km）、山の高さ50間程。かのあほう鳥は3月雛をかえし、やがて巢を立ち、親鳥と共に飛び去ってしまい見えなくなる。
- 3月頃、10里程沖合を通過する大船に合図のため物を振ったが、気付かず通り過ぎた。
- 4月頃から、あほう鳥が獲れなくなり磯貝を食用にした。あほう鳥は山上にいるのではと思い登ってみると平地があって、誰かいるのかと見廻したが人影は見えなかった。石を取り除いた窪みに雨上がりに水が溜まると見え、あほう鳥がいて12羽捕り持ち帰ると皆が大喜びし、以後交替で獲りに行き毎日食べた。
- この島での日々は変化がないので詳しくは記さない。在島約170日。
- 6月3日頃、巽（註：東南）の方向遙か沖に白帆が見え、一同全員でその船がこちらへ来るようにと神仏に祈った。昼頃船が5里程の所へ近づいて来たが、風向きが悪くて南西の方へ廻り、山の陰に隠れてしまったので皆力を落し、この島で死ぬのかと嘆いた。しかし万次郎が或は島の南西の方に着くかも知れない、と一人で10町程山を回り込んでみると、白帆が2つ見え近づく様なので喜んで戻り、一同に告げて直ぐに行き、五右衛門、寅右衛門も後を追う。船が3人を見付けたのか、船を廻す様子なので襦袢を脱いで振ると、船からも笠で応対してきた。20間も高い崖の上だったので、着物を尻に敷いて荒磯までずり落ちる。着物を頭に巻いて泳いで来いとのかげ（はしけ）からの仕草に従い、泳いでいくと水夫が引き上げてくれた。島にもう2人いる、と合図すると、二人の水夫が岩穴にいて、恐がり逃げようとする伝蔵と重助を無理にかげに乗せ本船へ連れてきた。
- 翌朝、船長の指示で、万次郎が島に残してあった衣類を取って本船に戻ると、豚を焼いて一同に食べさせてくれた。その後島を離れ北の方へ捕鯨に乗り出した。10日ほどして鯨を見付けかげ4艘を下し、1艘に6・7人ずつ乗り鯨を獲りに行く。



2. ジョン・ハウランド号で捕鯨航海（1年10ヶ月）

鳥島——捕鯨——ハワイ・オアフ島——捕鯨——アメリカへ

（本船のジョン・ハウランド号、捕鯨船、船長ホイットフィールド、長さ30間、幅7間余、人数36人）

- 無人島（鳥島）を出て4カ月、この間鯨20本捕り、10月中ウワフ国（ハワイ・オアフ島）に着船。この地周廻り30里。（註：その外人種、風俗、気候、諸国との交易などオアフ国の説明有り。この時点ではハワイは独立国）。
- 伝蔵、五右衛門、重助、寅右衛門の4人はオアフ国の役人に預け、万次郎のみ他の船員と共に捕鯨のため

出帆する。

直前に船長から万次郎をアメリカへ連れて行き教育したい、との希望が責任者伝蔵に伝えられ、万次郎の同意を得て、彼のみ再度捕鯨船に同乗出帆、捕鯨航海中にも船長よりアメリカやその他全般について教育を受けた。

(註：船長はこの時既に万次郎の才能を見抜いていたものと思われ、万次郎も積極的にこれに応じている)

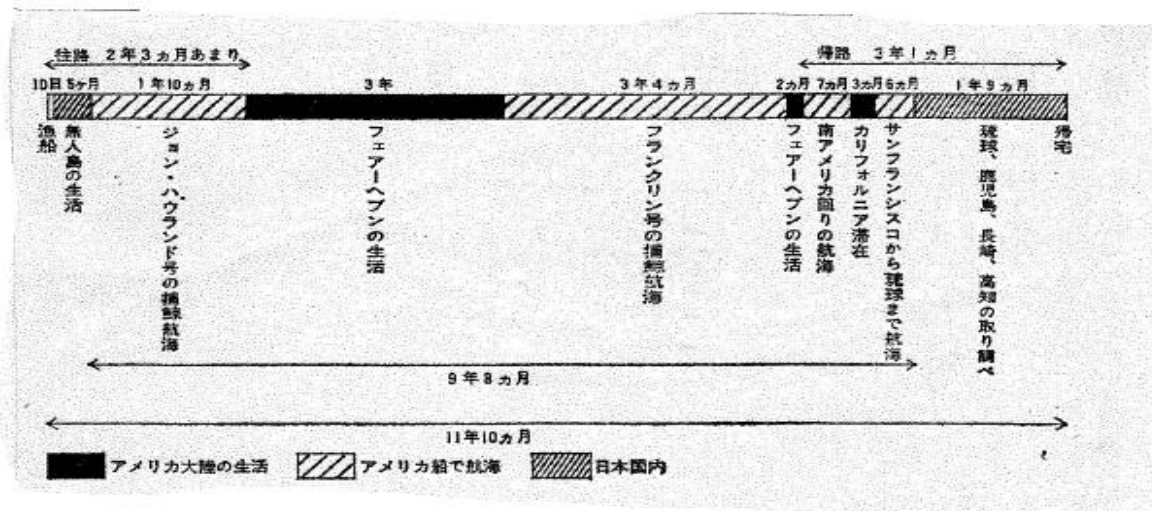
○翌年グアム島へ着く。30日余滞船した後出帆し台湾、沖縄、日本の東海、鳥島の近海で鯨を獲る。

グアム島については「山高く、人の色大抵日本人の如し、惣髪ザン切」で家は数千軒で茅葺、と記している。この後オアフ島を目指す为天候が悪く、タヒチを通過、再度グアム島を經由し大きく迂回して赤道の南を越える。南アメリカ南端ホーン岬を通過する際「廻り4~50里もある氷山を見る」。その後大西洋へ出て、北アメリカ北岸の船長の故郷を目指す。

(以下 次号)

(参考)

万次郎の漂流と海外生活等約11年の足どり



図の出典；『中浜万次郎の生涯』より・

中浜 明 著 (万次郎の孫)



行事予定

2016年6月～8月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	6月	7月	8月
学習会	6月11日(土) 金沢CC 13:30～16:00 南北朝 鎌倉幕府滅亡から観応の擾乱 東洋大学講師 細川重男氏	7月9日(土) 能見台CC 13:30～16:00 南北朝 観応の擾乱から兩朝合一 東洋大学講師 細川重男氏	8月6日(土) 県立金沢文庫 9:30～12:00 【訪問講座】国宝称名寺聖教・ 金沢文庫文書 金沢文庫 主任学芸員 道津綾乃氏
寺社を巡る会	6月2日(木) 10:00 集合：十二所バス停 地区：十二所 訪問先：光触寺、明王院、浄妙寺、 報国寺、杉本寺、荏柄天神、 頼朝墓	7月7日(木) 10:00 集合：北鎌倉駅 円覚寺 地区：山ノ内 訪問先：円覚寺、円覚寺塔頭、 東慶寺 (半日コース)	8月4日(木) テーマ：DVD鑑賞 百寺巡礼 集合：場所・時間未定
古文書を読む会	6月9日(木) 区民活動センター 10:00～12:00 赤井村石井家文書 6月23日(木) 区民活動C 10:00～12:00 奥の細道	7月14日(木) 場所未定 10:00～12:00 赤井村石井家文書 7月28日(木) 場所未定 10:00～12:00 奥の細道	8月11日(木) 場所未定 10:00～12:00 赤井村石井家文書 8月25日(木) 場所未定 10:00～12:00 奥の細道
ふれあいの道歩こう会	6月9日(予備日10) 120回=独自コースNo.38 生藤山 東京都と神奈川県の間	7月28日、29日(雨天中止) 121回=独自コースNo.39 花の尾瀬 群馬県・福島県	休会(夏休み)
懐かしの映画を観る会	6月13日(月)12:15 金沢cc オペラ座の怪人 (米) 6月27日(月)12:15 金沢cc キー・ラーゴ (米) お嬢さん乾杯 (日)	7月11日(月)12:15 金沢cc いつか晴れた日に (米) 7月25日(月)12:15 金沢cc ゴッド・ファーザー (米)	8月8日(月)12:15 金沢cc 怪談 (日) 8月22日(月)12:15 金沢cc 悪魔のような女 (仏)
浮雲俳句会	6月5日(日) 12:00～ 金沢CC 第18回金沢区民俳句大会への参加	7月31日(日) 9:30～ 能見台CC 第101回例会 テーマ 芦ノ湖	8月28日(日) 9:30～ 能見台CC 第102回例会 テーマ 浜名湖
パソコンを使いこなす会	6月14日(火) 金沢CC Internet 実用講座 —インターネット情報— 6月21日(火) 金沢CC Office 実用講座 —名刺の作成— 9:30～12:00	7月12日(火) 金沢CC Windows 実用講座 —Windows10— 7月19日(火) 金沢CC Internet 実用講座 —フェイスブッカー— 9:30～12:00	8月9日(火) 金沢CC Explore 実用講座 —ファイル/フォルダー— 8月16日(火) 金沢CC Office 実用講座 —日本語入力— 9:30～12:00

連絡先:

- ・学習会 782-5336 (内田)
- ・ふれあいの道歩こう会 782-8147 (小俣)
- ・寺社を巡る会 046-866-3339 (吉田寿)
- ・古文書を読む会 784-4900(真田)
- ・懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)
- ・パソコンを使いこなす会 701-9775(林)
- ・浮雲俳句会 774-3878(北野)

編集後記 「うさぎ追いし彼の山 こぶな釣りし彼の川 夢はいまもめぐりて 忘れがたきふるさと」 日本人に最も愛されている唱歌の一節ですが、その理由の一つは、歌詞すべてが大和言葉で書かれており、言葉のもつ美しさやしなやかさなどが人の心に染み、感動を与えるのだと思います。皆さん、書いてみませんか。書くことは頭の健康を保つ最も有効なツールであるとの指摘もあります。また、会報の質を向上させマンネリ化を防ぐ上でも、会員の皆さんからの投稿が必須です。趣味や特技あるいは思い出や印象に残っていることなど、皆さんの投稿をお待ちしております。(S・Y)	発行日	平成28(2016)年5月14日
	発行月	4回(2,5,8,11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集長	鈴木 秀幸
	編集委員	貝田 誠作 田中 徳明 伊達 一雄 相川 勲 柴崎 幸治 金久保常二 山腰策次郎 江口 正彦 金間 誠一